

平成27年度シラバス

東京大学全学研究科等横断型教育プログラム

Japan-Asian Studies Program Academic Year 2015 - 2016

「日本・アジア学」教育プログラムは、
文系・理系を問わず、
激動するアジアを広く、
そして深く知ることができる
カリキュラムです。

日本・アジア学

アジアはどこに向かうのか

参加資格
Eligibility

東京大学の大学院生
(所属研究科・教育部は問いません)
All graduate students of University of Tokyo
(Regardless of graduate school or educational department)

修了要件
Completion
criteria

12単位
(言語科目群は4単位まで)
12 credits
(No more than four from language-related disciplines)

修了証
Certificate
of Program
Completion

東京大学が授与する
正式な修了証
Certificate formally awarded
by University of Tokyo

Introduction



「日本・アジア学」教育プログラムとは

日本を含むアジアについての教育活動を、部局と分野を超えて新たに体系化・総合化したもので、意欲ある大学院学生のみなさんが、所属する研究科・教育部局固有の教育カリキュラムに加えて履修し、修了するものです。

本プログラムは、総合科目群と言語科目群に大別されます。総合科目群は、本プログラムの中核をなすもので、分野横断・部局横断のカリキュラムを通じて、日本を含むアジアについて理解を深めるものです。各研究科・教育部において正規課程の科目として実施される授業がこれに該当します。総論、社会・文化論、社会技術論、自然環境論、健康論、情報論、特論からなります。また言語科目群は、教養学部あるいは文学部の学部後期課程(3-4年生)で開講される外国語科目のうち日本・アジアと関わるものを、意欲ある大学院学生が履修することを奨励するものです。

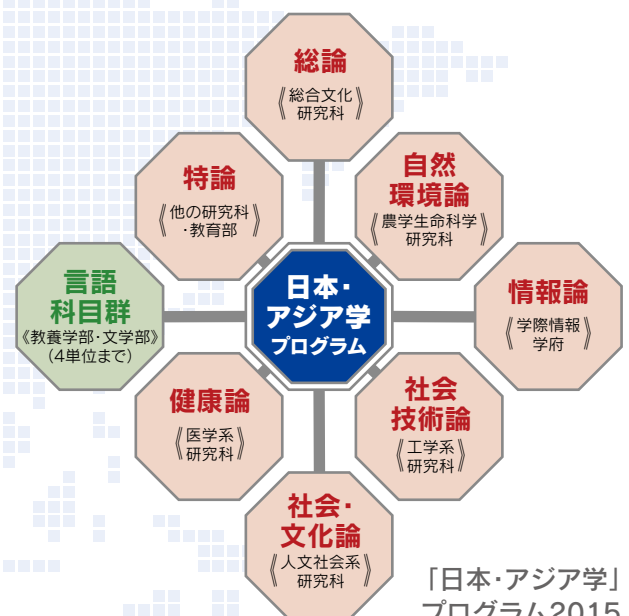
総合科目群のみから、あるいは言語科目群と総合科目群の合計で12単位以上を取得した場合に、プログラムを修了したと認定し、修了証を発行します。ただし、言語科目群から取得した単位を、修了要件の一部とする場合には、4単位を上限とします。

Japan-Asian Studies Program

The Japan-Asian Studies Program is an educational undertaking that represents a new systemization and a newly comprehensive approach to Asia, including Japan, that transcends departments and fields. It can be participated in and completed by all graduate students interested in it as a supplement to the specific educational curriculum of whatever graduate school or faculty department they belong to.

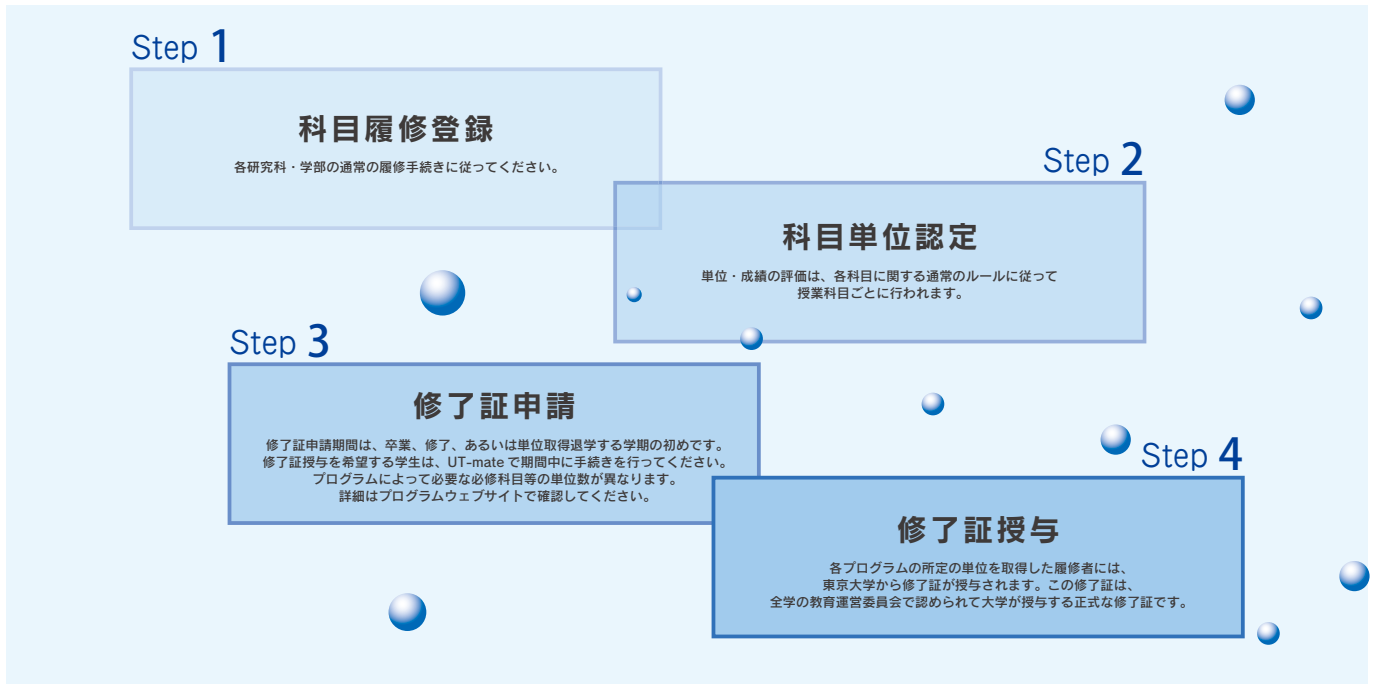
The program can be broadly divided into general and language-related subjects. The general subjects form the core of the program, and offer a deeper understanding of Asia, including Japan, by way of an interdisciplinary, interdepartmental curriculum. Classes held by each graduate school and faculty as part of its standard curriculum come under the program, which comprises Liberal Arts and Sciences, Society and Culture, Social Technology, Natural Environment, Health Sciences, Information Sciences, and Advanced Studies. Furthermore, when it comes to language-related disciplines, students who wish to do so are encouraged to take the Asian foreign language courses offered in the Undergraduate course senior division (third and fourth year) curriculum of the College of Arts and Sciences and Faculty of Letters.

In the case of a total of 12 or more credits having been gained from general theory-related disciplines only or from language-related disciplines and general theory-related disciplines, recognition will be given of course completion, and a certificate of completion will be issued. However, no more than four credits may be gained from language-related disciplines for the purposes of satisfying completion requirements.



「日本・アジア学」
プログラム2015

Japan-Asian
Studies Program 2015



1 科目履修方法 1. Program participation: Enrolling each course

東京大学のすべての大学院研究科・教育部に所属している学生が履修できます。修了証の取得を目的とした履修だけでなく、個々の科目のみを履修することも歓迎します。

履修にあたっては、UT-mate上で登録を行ってください。ただし、医学系研究科など、UT-mateに対応していない研究科・教育部局の学生は教務課にて手続きを行ってください。

また、履修する科目が所属している研究科・教育部の科目となっていない場合には「他研究科(教育部)履修」の手続きを、また言語科目群の履修は「学部科目履修」の手続きを行ってください。

All students in the University of Tokyo's graduate schools may take part in the program. Students who take part not for the purpose of gaining a certificate of completion but only for certain courses are also welcome.

To enroll, please follow the prescribed enrolment procedures of your graduate school. In case the course you are taking is not part of the graduate school to which you belong, please complete the "Other graduate school enrolment" procedures, or, for the language-related disciplines, the "Undergraduate course enrolment" procedures.

2 プログラムへの参加 2. Program participation: Enrolling the program

「日本・アジア学」プログラムに参加しようと考えている方は、下記のホームページで連絡先等の登録を行ってください。事務局から、適宜、連絡を受けることができます。

<http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/6727>

All students who wish to receive the Certificate of Completion are required to register at the following URL. The Managing Committee or the network office will hereafter provide you with necessary information.

<http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/6727>

3 修了 3. Completion

修了要件である12単位(言語科目群からは4単位まで)を満たしたものは、課程修了前(単位取得満期退学含む)にUT-Mateにて手続きを行ってください。手続きの時期等は、各研究科の掲示板ならびにASNETのホームページにて通知されます。ただし、所属部局がUT-Mateに対応していない場合は、所属部局の大学院係・教務係に手続きを聞いてください。

Please submit Certificate Request through UT-Mate website, if you are able to use the UT-Mate system. Otherwise, please ask the network office. [Note: UT-Mate is at present available only in Japanese. Please contact the office if you cannot read Japanese].

4 注意事項 4. Important points.

- 最新情報は常にホームページで確認してください。
- 何かわからないことがあれば、お気軽に事務局までご連絡ください。

- >Please check the website regularly for information updates.
- >Please direct any inquiries to the network office.

<http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/>

<http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/>

受講生の声

● 受講生／井堂 有子

● 所 属／総合文化研究科地域文化研究専攻

多様な「アジア」から、分断する世界を想う

『日本・アジア学』講座の「中東経済発展・政治変動と文化社会変容」を受講し、古典的資料の購読を通じてこの地域の近現代の歴史・思想、政治経済について学びました。東・東南アジアを対象とする授業が多いなか、アジアの広さを忘れない本講座の懐の深さに感謝致します。アジアの西に位置するこの地域は、西欧・アフリカ世界とも繋がり「中東」等とも呼ばれます。ゾロアスター教やユダヤ教、キリスト教、イスラーム等多くの思想・哲学・宗教・文化を育み、商業や政治の中心として栄えてきた文明の揺籃の地です。

2015年初めの仏週刊誌社の襲撃事件をめぐり、ローマ・カトリック教会フランスコ法王はフィリピン訪問中、暴力を否定しつつ、「他の人の信仰を侮辱してはならない」と発言しました（2015年1月16日）。イスラームの預言者を諷刺画で揶揄した2005年のデンマーク諷刺画事件時と同様、再び「表現の自由」と「暴力」をめぐる議論が世界を覆っています。いま、世界中が問う「イスラーム国とは何か」という課題に明快即答が求められる現代、敢えて問題の深層部分を掘り起こす地味で孤独な知的作業の大切さを『日本・アジア学』講座は教えてくれます。ここで培われる他者を理解する忍耐力と技術が、「不寛容の時代」に最も必要なのでは、と深く考えます。



シリア西北部イドリブ遺跡より遠くアレッポ市を眺める
(2008年、写真筆者)。
今も戦争が続くこの地の平和を願う。

● 受講生／谷口 友孝

● 所 属／新領域創成科学研究科国際協力学専攻

ASNET から見た未来のアジア

在学中に ASNET の講座を 9 科目受講しました。それは、まさに「知への旅」でした。今回訪れた総論、社会技術論、健康論、情報論への旅はそれぞれが深遠な知恵と英知に満ちており、行く先々での出会いが刺激的でした。例えば、「Surviving Cancer in Asia」の講義がきっかけでヨルダン大学医学部を訪問し受講後もがん研究で東大との連携を



死海の夕日からアジアの未来を想う

進めています。また、「中東の経済発展・政治変動と文化社会変容」で得たアラブの歴史や文化に対する認識は現在従事している JICA 円借款事業のイラク通信プロジェクトを運営する重要な舵の一つになっています。このように、ASNET の授業は「一過性でない」ことが大きな特徴の一つです。その理由は、講座を通じて得た種子が受講後に芽吹いて開花するが如く、各講座が受講生の将来とアジアの未来に影響を及ぼす程のパワーを秘めているからです。これからの受講を考えている学生の皆さんへは、今すぐに「旅支度」をすることを強く勧める次第です。

●受講生／鈴木 崇史

●所 属／公共政策大学院国際公共政策コース 1 年

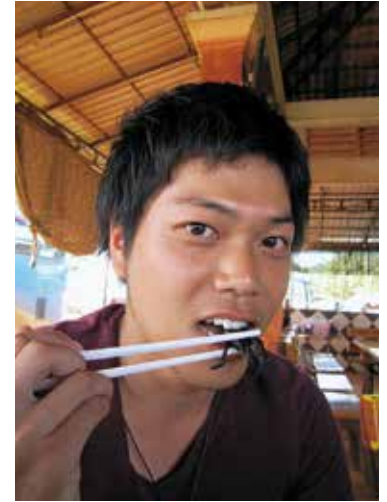
「虫の眼」から本質を問い直す

私は途上国の開発政策に関心があり、現地のありのままの姿を知る手法を学びたいという思いから、『日本・アジア学』講座の「アジアのフィールドワーク論」を受講しました。

授業で学んだ、「虫の眼」を通じて「人間とは何か」という本源的な問いに挑む人類学的なアプローチは、「鳥の眼」を中心に公共政策を考えていた従来の私にとって、新鮮かつ示唆に富むものでした。

授業では国内外での実習の機会も多く与えていただきました。国内では、新潟県小千谷の「牛の角突き」を見に行くなど、今まで馴染のなかった地域の歴史や文化に出会い、日本を改めて見つめ直すきっかけになりました。さらに、カンボジアでのフィールドワーク実習では、さまざまな農村を巡り、貧しいながらも生き生きと機織りや土器作りに汗を流す農民達に話を伺うなかで、「豊かさ／貧しさとは何か」と深く考えさせられました。

本講座で学んだ、複眼的な視点を持ち積極的にフィールドに飛び込んでいく姿勢を、今後の研究や将来的な実務における糧として大切にしていきます。



「カンボジアにてクモを味わう」

●受講生／連 テイテイ

●所 属／学際情報学府 社会情報学コース

参与「日本・アジア学」教育項目已有一学年，选修的四门课都不同程度地启发了我。

「中国を見る眼」和「中国の環境と人類学」教会我从新的角度去理解自认为已经透彻熟知的祖国，在很多曾经被忽视的细节里重新发掘民族与文化的特征，在那些初次听闻的事件里体会某特定地区多侧面的历史进程。对于我而言，人类学是个崭新的领域，颇有些神秘色彩，但我真正走近它，才渐渐发觉这是一门充满了人文关怀的学科。同学们在课上的自由讨论和发问深刻又有趣，不同的见解也正好展现了地域文化的差异。除此之外，我还通年选修了基础藏语课，这算是圆了自己的一个心愿，长久以来的我对藏语和佛教文化就抱有极大的热情，碍于学习资源有限，加之与专业的不一致，一直未能实现，「日本・アジア学」教育项目给了我动力，终于圆梦。在「日本・アジア学」的学习过程，是一份不可多得的体验。



神戸六甲山にて

科目紹介

- 担当教員：渡辺 知保（医学系研究科）
- 科目名：人類生態学特論 (Human Ecology)

人類生態学は、ヒトの環境への適応を研究する学問です。近年の環境問題・食料問題・人口問題の理解に基本的な知見を提供する学問分野として期待されています。『日本・アジア学』講座のなかの「Human Ecology」科目では、人間の活動が環境に及ぼすインパクトとインパクトを受けた環境からさらに人間自身が受ける影響という人間-環境系の複雑なかかわりを人口統計学や栄養学、環境保健学、精神毒性学、生態学を切り口に読み解いていきます。

アジアやオセアニア地域において急速に進む近代化や都市化、人口増加、自然環境の悪化、医療技術の発展、健康転換の現状とその解決策を多面的な視点から理解したい学生の受講を歓迎します。我われ人類が直面している課題をともに考えましょう。

- 担当教員：長澤 榮治（東文研）・後藤 絵美（東文研、ASNET）
- 科目名：イスラームを見る眼

最近、日常生活のなかで「イスラーム」や「ムスリム（イスラーム教徒）」という言葉を目にする機会が多くなりました。ただし、そうして聞こえてくる情報の大半は、現代世界を震撼させる「過激派」と呼ばれるグループなど、ごく一握りの人びとに関するものです。それ以外の人びとの生活のなかで「イスラーム」がどのような形をとってきたのか、「ムスリム」が何を考え、どのように暮らしてきたのかは実はあまり知られていないようです。



カイロのスルタン・ハサン・モスクの内部。14世紀半ばに建造された。静かな中庭で耳を澄ますと過去から現在までのさまざまな声が聞こえてくる。

本講義は、過去から現在までの人びとの営みとイスラームの関わりを多様な視角から眺めていくものです。具体的には、前半の回で、その教義や思想、法、歴史、美術といったテーマを、後半の回では、現代的な事象（ジェンダー関係の変容、共産主義との関わり、改宗問題、終末論とジハード、知識人の個人史など）をそれぞれ取り上げる中で、イスラームの多様性やダイナミズムとその背後にあるものを明るみに出していきます。この授業を通して、イスラームをより深く知るとともに、それに関わる近年の事象を眺めるための、広い視野と深い洞察力を身につけることを目指します。

- 担当教員：赤座 英之（情報学環）・河原 ノリエ（情報学環）
- 科目名：アジアでがんを生き延びる

高齢化社会に突入していく日本とアジア。がんというアジアの共有課題を通して、高齢化、医療格差、死生観の変容、グローバリズムとナショナリズムのねじれ、などアジアの今日的な課題が浮かび上がってくる。

各分野の第一人者によってそれぞれの専門性のなかから「がん」を医学はもとより、政治・経済・文化など様々な領域から捉えてみることを通して日本とアジアのありようを読み解いていく。

受講者は、専門分野に引き寄せて各テーマごとに深掘りされていく場所に降りていくことで、自らの研究の相対化に繋がる仕掛けともなっている。今年5年目を迎える本講義は、戦後70年という節目に立ち、日本がアジアとどのように向き合っていけばよいのか、深い思索の場となる。



この授業の受講生も参加して「Cross-boundary Cancer Studies」という学際連携プログラムが日中韓の大学連携でスタートしている（延世大学）。

Contents

目次

分野	科目名	担当教員	semester	ページ
総論	● イスラームを見る眼 (地域文化研究特別講義 I)	長澤榮治・後藤絵美	S	P.07
	● アジアのフィールドワーク論 (地域文化研究特別講義 II)	卯田宗平	S	P.07
	● アジアでがんを生き延びる (地域文化研究特別講義 II)	赤座英之・河原ノリエ	S	P.08
	● 現代民俗学の可能性と課題 (通文化研究基礎論 I)	菅豊	S	P.08
	● 中東の経済発展・政治変動と文化社会変容 (通文化研究基礎論 II)	長澤榮治	S	P.09
	● 朝鮮植民地支配の終焉と日本人 (アジア太平洋文化交流論 I)	外村大	S	P.09
	● 途上国農村経済論 (アジア太平洋文化交流論 I)	高橋昭雄	S	P.10
	● 人間環境論 II	永田淳嗣	S	P.10
	● サステナビリティの戦略 II	永田淳嗣	A	P.10
	● 朝鮮半島をめぐる政治経済・国際政治 (多元地域協力論 II)	木宮正史	S/A	P.11
	● 書き直される中国近現代史Ⅷ (国際社会科学特別講義Ⅳ)	川島真	A	P.12
社会・文化論	● 世界史研究の方法 (比較アジア社会文化論演習)	羽田正	通年	P.12
	● グローバル・ヒストリーとアジア (1)(2) (アジア史学演習)	水島司	S/A	P.13
	● 近代アジアの開発と社会変化 (1)(2) (比較アジア社会文化論演習)	水島司	S/A	P.13
	● 韓国朝鮮対照民族誌 (韓国朝鮮言語社会特殊研究)	本田洋	S	P.14
	● 民族誌と歴史 (韓国朝鮮言語社会演習)	本田洋	S	P.14
社会技術論	● Advanced Lectures on Sociotechnology	HORII Hideyuki	夏	P.15
	● Case Studies of International Projects	HORII Hideyuki	冬	P.16
自然環境論	● アジアの食と農・環境 (農学国際特論Ⅲ)	井上真	集中	P.17
	● アマルティア・センの正義論 (汎アジア経済論Ⅳ)	池本幸生	A2W	P.17
	● 連帯経済とソーシャル・ビジネス (汎アジア経済論Ⅲ)	池本幸生	S1A1	P.18
健康論	● 精神保健学 I	川上憲人	S	P.18
	● 精神保健学 II	島津明人	A2W	P.19
	● 健康教育学	橋本英樹	W	P.19
	● 医療コミュニケーション学講義	木内貴弘	S1	P.20
	● 医療コミュニケーション学演習	木内貴弘	S2	P.21
	● 国際地域保健学特論 I	神馬征峰	S	P.21
	● 健康社会学	橋本英樹	A2	P.22
	● 人類生態学特論 I	渡辺知保	S	P.22
情報論	● Introduction to Asian Studies: History and International Relations - Lectures 2015(ITASIA101)	MATSUDA Yasuhiro	冬	P.22
	● International Conflict Study(ITASIA124)	FUJIWARA Kiichi	S	P.23
	● Surviving Cancer in Asia(ITASIA128)	AKAZA Hideyuki	冬	P.23
	● Modern Japanese Diplomacy(ITASIA131)	KONDO Seichi	S	P.23
	● Assimilation and Japanese Nationalism(ITASIA132)	LEE Hyunsun	冬	P.24
	● Japanese Foreign Economic Policy(ITASIA133)	IIDA Keisuke	A	P.24
	● Understanding Taiwan and Japan in Global Settings(ITASIA143)	SONODA Shigeto, MATSUDA Yasuhiro	冬集中	P.24
	● Understanding Japanese Company in China: UTokyo-Peking Joint Summer Program(ITASIA144)	SONODA Shigeto, UDA Shuhei	冬集中	P.25
	● MindHacks: Organizing Knowledge, Resources and Research in the Internet Era(ITASIA319)	Michael SCHILTZ	夏	P.25
特論	● 文化・人間情報学特論 I	真鍋祐子	冬	P.25
	● 日中関係	丸川知雄	S	P.26

イスラームを見る眼 ～地域文化研究特別講義Ⅰ～

Advanced Lecture in Asian Studies I

科目番号 Course ID Number	31M220-1313S 31D220-1313S	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	長澤榮治（東文研） Eiji Nagasawa (Advanced Studies on Asia)	場 所 Venue	東洋文化研究所三階大会議室 Main Meeting Room, 3rd floor, Institute for advanced Studies on Asia, Hong Campus
授業時間 Semester/Time	S semester、木 (Thu)、4 時限（14:55-16:40）	履修上の注意 Important points	受講者には毎回、A4 一枚分の感想・質問文の提出を課す。
キーワード Keywords	イスラーム、宗教、歴史、美術、西アジア、中央アジア、東南アジア Islam, religion, history, art, West Asia, Central Asia, Southeast Asia		

授業内容 The contents of a lesson

○授業の目標・概要

本講義は、「イスラーム」に関わる地域や社会、文化的事象について、多様な学問分野の専門家の協力を得ながら、オムニバス形式で学ぶものである。具体的には、「イスラーム」と呼ばれるものが、多様な時代を生き、異なる地域で暮らす人々の営みとどのように関わってきたのかを、複数の事例をもとに、講義と議論を通じて理解する。

イスラームやムスリム（イスラーム教徒）については、とかく画一的に語られがちである。この授業によって、我々はそうした現状を問い直すとともに、イスラームをどう理解しうるのか、その上で現代世界とどのように関わっていくのかを考察できるような素養を身につけることを目指す。

○成績評価方法

成績は、授業への参加の積極性によって総合的に評価する。

講義日程

第 1 回	4 月 9 日	イントロダクション (モデレーター：後藤絵美、趣旨説明：長澤榮治、イスラーム概論：鎌田繁)
第 2 回	4 月 16 日	イスラームと理性的思索（鎌田繁）
第 3 回	4 月 23 日	イスラーム教における「異端」問題（菊地達也）
第 4 回	4 月 30 日	イスラーム法とハディース（柳橋博之）
第 5 回	5 月 7 日	歴史に見る、人の営みとしての「イスラーム」（森本一夫）
第 6 回	5 月 14 日	イスラームの宗教建築・美術（榎屋友子）
第 7 回	5 月 21 日	前半のまとめと議論（長澤榮治・後藤絵美）
第 8 回	5 月 28 日	湾岸諸国で変容するジェンダー関係（辻上奈美江）
第 9 回	6 月 4 日	中央アジア：共産主義とイスラーム（河原弥生）
第 10 回	6 月 11 日	マレーシアとフィリピン：サマのイスラーム化とキリスト教化（青山和佳）
第 11 回	6 月 18 日	終末論とジハード（池内恵）
第 12 回	6 月 25 日	知識人とイスラーム—あるエジプト人社会学者の個人史から（長澤榮治）
第 13 回	7 月 2 日	[全体のまとめと議論]（長澤榮治・後藤絵美）

アジアのフィールドワーク論 ～地域文化研究特別講義Ⅱ～

Advanced Lecture in Asian Studies II

科目番号 Course ID Number	31M220-1323S 31D220-1323S	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	卯田宗平 (ASNET) Shuhei Uda (ASNET)	場 所 Venue	東洋文化研究所三階第 1 会議室 Meeting Room 1, 3rd floor, Institute for advanced Studies on Asia, Hong Campus
授業時間 Semester/Time	S semester、金 (Fri)、3 時限（13:00-14:45）	履修上の注意 Important points	成績は、授業への参加の積極性、課題発表、レポートによって評価する。
授業内容 The contents of a lesson	本講義では、アジアを対象としたフィールドワークの成果、インフォーマントとの関係、民族誌の書き方、調査の方法、iPad と FileMaker を利用した野外情報の収集スキル、フィールドワークの経験など学ぶ。講義（安全対策や倫理も含む）を行ったあと、日本（佐賀大学との共同）やアジアの国で実習を行う予定（実習は自費）。 【協力講師】 梅崎昌裕（東京大学大学院医学系研究科准教授：人類生態学） 田所聖志（秋田大学国際資源学部准教授：文化人類学） 石川正敏（東京成徳大学経営学部准教授：情報工学）		

分野／総論 (総合文化研究科) Field : Liberal Art and Sciences

単位 / 2 Credit : 2

アジアでがんを生き延びる ～地域文化研究特別講義 II～

Surviving Cancer in Asia

科目番号 Course ID Number	31M/D220-1328S 4990180 (情報学環の学生向け)	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	赤座英之 (情報学環)・河原ノリエ (情報学環) Hideyuki Akaza (Interfaculty Initiative in Information Studies), Norie Kawahara (Interfaculty Initiative in Information Studies)	場 所 Venue	福武ラーニングシアターほか Fukutake Learning Theater, Fukutake Hall, Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	S semester、月 (Mon)、5 時限 (16:50-18:35)	履修上の注意 Important points	大学院生以外の聴講も可能 (事前登録必要)
キーワード Keywords	高齢者社会、歴史認識、戦後 70 年、アジアの死生観、 アジアがんバロメーター Cross-boundary Cancer Studies, Global Health Agenda, Universal Health Coverage,	講 師 陣 Lectures	赤座英之・河原ノリエ・増井徹・井上肇・堀江重郎・ 高橋悟 (モデレーター)
授業内容 The contents of a lesson	<p>○授業の目標・概要 高齢化社会に突入していく日本とアジア。がんというアジアの共有課題を通して、高齢化、医療格差、死生観の変容、グローバリズムとナショナリズムのねじれ、などアジアの今日的な課題が浮かび上がってくる。本講義は、がんを医学はもとより、政治・経済・文化など様々な領域から捉えてみることを通して、世界の内実を読み解くことを学問的考察の端緒とする「Cross-boundary Cancer Studies」という学際連携プログラムの中に位置づけられている。受講者は、それぞれの専門分野に引き寄せて、オムニバスで展開されるアジアのがんを巡る各テーマごとに深掘りされていく場所に降りていくことで、普遍的な問いの輪郭を掴み、自らの研究の相対化に繋がる仕掛けともなっている。</p> <p>○授業計画 様々な領域の第一人者である講師によるオムニバス方式の講義で、アジアのがんという重い共有課題を通じた思索の場とする。今年 5 年目を迎える本講義は、戦後 70 年という節目に立ち、日本がアジアとどのように向き合っていくべきなのか、過去をみつめて未来をつむぐ考察を生み出す。</p> <p>○今期予定されている講師一覧 永六輔、吉見俊哉、赤座英之、真鍋祐子、波平恵美子、辻哲夫、猪口孝、田原総一郎、藤崎一郎、江崎玲於奈 ほか</p> <p>○授業の方法 各回の講師からの 60 分程の講義の後、全体討論を行う。 各講師からの問いが毎回用意されており、1 週間以内の提出を課題とする。</p> <p>○成績評価方法 成績は、授業時における討論のあり方やレポートによって総合的に評価する。</p> <p>○参考書 「アジアでがんを生き延びる」東京大学出版会 2013 年刊 Japanese Journal of Clinical Oncology VOLUME44 Supplement 1 2014 Surviving Cancer in Asia : Cross-boundary Cancer Studies, The University of Tokyo OXFORD UNIVERSITY PRESS</p> <p>○関連ホームページ 詳細は：www.siccn.org</p> <p>○その他 冬学期には本授業と連動した授業が開講している (時間割コード 4971280) Information, Technology, and Society in Asia128 Surviving Cancer in Asia</p>		

分野／総論 (総合文化研究科) Field : Liberal Art and Sciences

単位 / 2 Credit : 2

現代民俗学の可能性と課題 ～通文化研究基礎論 I～

Foundation of Trans-regional Studies I

科目番号 Course ID Number	31M220-1131S 31D220-1131S	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	菅豊 (東洋文化研究所) Yutaka Suga (Advanced Studies on Asia)	場 所 Venue	東洋文化研究所汎アジア部門室 Meeting room of Pan Asia Studies, Institute for Advances Studies on Asia, Hong Campus
授業時間 Semester/Time	S semester、水 (Wed)、1 時限 (8:30-10:15)	キーワード Keywords	民俗学、文化資源、学問の公共性、構築主義、公共民俗学、 民間学知
履修上の注意 Important points	初回開講は 4 月 8 日の予定 (変更の可能性があるので受講希望者は菅に連絡をすること)。開講教室確定の都合のため、受講希望者は、4 月 6 日までに菅宛にメール (suga@ioc.u-tokyo.ac.jp) で連絡すること。授業は本郷キャンパス東京大学東洋文化研究所で開講する。		
授業内容 The contents of a lesson	<p>○授業の目標・概要 近代状況において、世界各地で「民俗学」という学問が勃興した。「民俗学」は、土着文化の自己理解とその復興運動、そして、その運動の学問化の運動ということができる。それは、社会状況の大きな変化に伴い、現在、学問の根本からの大きな変革が求められている。その変革に向けて、旧来の民俗学の否定と解体、そして、現代に適合した新しい研究領域としての再構築を行うために、日本のみならず海外の民俗学を取り上げながら、現代民俗学の理論的検討を行う。</p> <p>○授業の方法 受講者は教員が設定する課題について発表し、討論する。</p> <p>○成績評価方法 評価は、出席、発表、議論への寄与、レポートなどをもとに行う。受講希望者は、事前に菅宛にメールで連絡すること。</p>		

中東の経済発展・政治変動と文化社会変容 ～通文化研究基礎論Ⅱ～

Foundations of Trans-regional Studies II

科目番号 Course ID Number	31M220-1142S 31D220-1142S	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	長澤榮治（東文研） Eiji Nagasawa (Advanced Studies on Asia)	場 所 Venue	東洋文化研究所 804 室 804 Room, Institute for advanced Studies on Asia, Hong Campus
授業時間 Semester/Time	S semester、水 (Wed)、3 時限（13:00-14:45）	キーワード Keywords	中東、アラブ、社会変容、イスラーム The Middle East, Arab, Islam, Social Change
授業内容 The contents of a lesson	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の目標・概要 中東の社会変容に関する考察を通じて、同地域が直面する様々な問題に対する客観的な分析を可能にする方法論的態度を学ぶ ○授業計画 中東諸国の経済発展と政治変動、およびそれに伴う文化社会変容をめぐる諸問題を多面的に考察する 第一回 オリエンテーション 第二回以降 文献講読 Adam Hanieh, Capitalism and Class in the Gulf Arab States, 2011. ○授業の方法 文献講読と報告、議論 ○成績評価方法 出席状況および報告と議論の内容 ○教科書 Adam Hanieh, Capitalism and Class in the Gulf Arab States, 2011. ○参考書 ロジャー・オーウェン『現代中東の国家・権力・政治』明石書店 2015 年、日本国際問題研究所『グローバル戦略課題としての中東—2030 年の見通しと対応—』2014 年版、2015 年版、長澤榮治『エジプト革命 アラブ世界変動の行方』（平凡社新書）、同『アラブ革命の遺産』（平凡社）、同『エジプトの自画像』（同）、佐藤次高編『西アジア①アラブ』山川出版社（とくに第 7 章「現代アラブの国家と社会」）、アルバート・ホーラーニー『アラブの人々の歴史』第三書館、酒井啓子編『中東政治学』有斐閣 		

朝鮮植民地支配の終焉と日本人 ～アジア太平洋文化交流論Ⅰ～

科目番号 Course ID Number	31M220-0971S 31D220-0971S	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	外村大（総合文化研究科） Masaru Tonomura (Art and Sciences)	場 所 Venue	TBA
授業時間 Semester/Time	S semester、火 (Tue)、2 時限（10:25-12:10）	キーワード Keywords	戦後社会、民衆生活、冷戦、経済復興、経済成長
授業内容 The contents of a lesson	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の目標・概要 1945 年 8 月の日本の敗戦によって朝鮮が独立することとなる。このことによって朝鮮内に住んでいた日本人や朝鮮統治にかかわった人物がどういう状況におかれることになったか、朝鮮人との間の民族関係がどう変化したか、彼らの認識の変化およびその後どのような影響を与えたかを考えていく。 ○授業計画 最初にこれまでの研究から明らかになっている事実や指摘されてきたことなどを確認する。その上で、各自の問題関心も踏まえて関連する史料を読み解いていく。 ○授業の方法 各自の報告に基づき討論を行う。 ○成績評価方法 各自の口頭報告内容と討論への参加およびレポートによる。 ○教科書 なし ○参考書 森田芳夫『朝鮮終戦の記録—米ソ両軍の進駐と日本人の引揚』敵南堂、1964 年 		

分野／総論 (総合文化研究科) Field : Liberal Art and Sciences

単位 / 2 Credit : 2

途上国農村経済論 ～アジア太平洋文化交流論 I～

科目番号 Course ID Number	31M220-0972S 31D220-0972S	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	高橋昭雄 (東文研) Akio Takahashi (Advanced Studies on Asia)	場 所 Venue	東洋文化研究所 606 Room 606, Institute for Advanced Studies on Asia, Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	S semester、火 (Tue)、3 時限 (13:00-14:45)	キーワード Keywords	農村社会経済、地域発展、東南アジア、経済史、コミュニティ Village economy, Regional development, Southeast Asia, Economic history, Community
授業内容 The contents of a lesson	<p>○授業の目標・概要 発展途上国の農村社会経済について勉強する。「農業」経済ではなく「農村」社会経済であるので、当然のことながら、農村工業、労働移動、就業構造、都市化、貧困といった問題も含めて演習の課題とする。どのような 이슈 に重点をおくかについては参加者と協議のうえ決定する。</p> <p>○授業の方法 東南アジアを中心とする発展途上国農村に関する最近の論文をテキストとし、当該テキストの内容、問題点、参考にするべき点等について、まず報告者が発表し、その後授業参加者でディスカッションを行なう。</p> <p>○成績評価方法 授業での報告・発言内容、平常点等。</p> <p>○参考書 高橋昭雄『ミャンマーの国と民一日緬比較村落社会論の試み一』明石書店 2012</p>		

分野／総論 (総合文化研究科) Field : Liberal Art and Sciences

単位 / 2 Credit : 2

人間環境論 II

Human Geography II

科目番号 Course ID Number	31M282-0620S 31D282-0620S	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	永田淳嗣 (総合文化研究科) Junji Nagata (Art and Sciences)	場 所 Venue	大学院総合文化研究科 2 号館 202 号室 Room 202, Bldg.2, Komaba Campus
授業時間 Semester/Time	S semester、火 (Tue)、3 時限 (13:00-14:45)	キーワード Keywords	社会－生態システム変動、社会科学方法論、人文地理学
授業内容 The contents of a lesson	<p>○授業の目標・概要 現代社会における社会変動と生態システム変化の複雑な関係を読み解くための、現場での現象理解に立脚した方法論・手法を受講者とともに探る。理論面とともに日本や東南アジアでの研究に基づく実践面からの検討を行う。主体的な問題意識を持ち、インテンシブな文献購読、濃密なディスカッション、十分に準備されたプレゼンテーションに意欲を持つものに受講を限る。</p> <p>○授業の方法 文献購読と、それに基づくプレゼンテーション、ディスカッションを中心とする。</p> <p>○成績評価方法 平常点とレポートによる。</p> <p>○教科書 特になし</p>		

分野／総論 (総合文化研究科) Field : Liberal Art and Sciences

単位 / 2 Credit : 2

サステナビリティの戦略 II

Sustainability Strategy II

科目番号 Course ID Number	31M290-0180A 31D290-0180A	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	永田淳嗣 (総合文化研究科) Junji Nagata (Art and Sciences)	場 所 Venue	TBA
授業時間 Semester/Time	A semester、火 (Tue)、3 時限 (13:00-14:45)	キーワード Keywords	社会－生態システム変動、人文地理学、社会科学方法論
授業内容 The contents of a lesson	<p>○授業の目標 現代社会における社会変動と生態システム変化の複雑な関係を読み解くための、現場での現象理解に立脚した方法論・手法を受講者とともに探る。理論面とともに日本や東南アジアでの研究に基づく実践面からの検討を行う。主体的な問題意識を持ち、インテンシブな文献購読、濃密なディスカッション、十分に準備されたプレゼンテーションに意欲を持つ者に受講を限る。</p> <p>○授業の方法 文献購読と、それに基づくプレゼンテーション、ディスカッションを中心とする。</p> <p>○成績評価方法 平常点とレポートによる。</p> <p>○教科書 特になし</p>		

朝鮮半島をめぐる政治経済・国際政治 ～多元地域協力論Ⅱ～

科目番号 Course ID Number	31M/D220-0020S (S semester) 31M/D220-0020A (A semester)	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	木宮正史（学際情報学府） Tadashi Kimiya (Interfaculty Initiative in Information Studies)	場 所 Venue	TBA
授業時間 Semester/Time	S・A semester、金 (Fri)、5 時限（16:50-18:35）	キーワード Keywords	冷戦、デタント、1970 年代、米中和解、朝鮮半島 the cold war, detente, 1970s, the US-China rapprochement, the Korean Peninsula
履修上の注意 Important points	本授業は、大学院法学政治学研究科、大学院学際情報学府との合併授業であり、場所は駒場キャンパスで行う。		
授業内容 The contents of a lesson	<p>○授業の目標・概要</p> <p>[S semester] 2015 年は 1965 年の日韓国交正常化から 50 年を迎える年である。この 50 年の間、一方で日韓はさまざまな協力経験を蓄積することで、非常に意義のある成果を生み出してきた。にもかかわらず、この帰結としての今日の日韓関係は葛藤に満ちている。また、北朝鮮問題を抱え、さらに中国の大国化という新たな環境変化、さらに、日韓の対等化という構造変容に直面して、その行先をさまよっているかのようにも見える。本講義では、そうした日韓関係の歴史を再検討し、どのようにして現状が形成されたのかを考え、そのうえで、そうした現状に基づいてどのような未来を構想するのかを、講師と受講者がともに悩み、考えることを目的とする。本講義は、日韓の複数の講師によるオムニバス講義であり、東京大学グローバル地域研究機構の韓国学研究部門による東京大学の海外韓国学中核大学育成事業の一環として行われる。</p> <p>[A semester] 1970 年代の国際政治は「デタント」として特徴づけられる。1960 年代の冷戦の絶頂期が 70 年代に入り、米中和解や米ソデタントなど、大国間国際政治のレベルで「デタント」と呼ばれる緊張緩和への動きが生まれ、それが一定程度制度化されたにもかかわらず、それが必ずしも堅固化しなかったという点に特徴があると思われる。また、大国間国際政治におけるデタントが、冷戦体制に組み込まれた諸地域や諸国家に対してどのような影響を及ぼし、どのような帰結をもたらしたのかに関しても、近年、外交文書の公開とともに研究が蓄積されつつある。本授業では、夏学期に引き続き、当該分野に関する最先端の研究成果を読み、1970 年代国際政治に関する研究に新たな視点を取り入れることを目指す。そのうえで、受講者の関心に沿って、1970 年代国際政治に関連した事例研究を行い、発表してもらうことも考えている。</p> <p>○授業計画</p> <p>[S semester] 以下のようなオムニバス講義で行う。 ① 4/10 イントロダクション 木宮正史 ② 4/17 日韓国交正常化交渉のプロセス NHK 日韓条約を見て来てもらったうえで、それについて議論する。 ③ 4/24 『歴史としての日韓国交正常化ⅠⅡ』を編集して 対談：木宮正史・李鍾元 ④ 5/ 1 韓国における日韓国交正常化をめぐる研究状況 張博珍 ⑤ 5/ 8 日韓国交正常化以後 50 年の日韓関係をどう見るか 政治：日本の視点 木宮正史</p> <p>* 5 月 15 日は五月祭のため休講</p> <p>[A semester] 授業の 3 分の 2 くらいは、当該テーマに関する基本的な文献を輪読することによって、1970 年代の国際政治に関する基本的な知識を獲得するとともに、何が争点になっているのかを確認することを目指す。さらに、1970 年代における国際政治の動態と、その中で展開された朝鮮半島をめぐる国際政治、さらには、朝鮮半島内部で展開された政治経済の動態に関しても考察する。授業の 3 分の 1 くらいは、各自、できるだけ当該テーマにひきつけた研究発表を行い、それに関する相互評価を行うことで、各自の研究の進展を図るとともに、そうした研究が、先行研究に対してどのような新たな知見を加えられるのかに関して共に考える。</p> <p>○授業の方法</p> <p>[S semester] オムニバス講義という形式であるが、受講者には予め、当該授業に関わる論稿を読んできてもらったうえで、講師との質疑応答という形式で授業を進める。何らかの可視的な成果を出すというわけではないが、予習と授業を通して、何が争点、問題であるのかを明らかにしたうえで、それについて、どのように考えるのか、そのためにはどのような勉強、研究をしたらよいのかを考えてもらうようにしたい。</p> <p>[A semester] 演習（基本的には担当を決めて、内容を要約して発表、それに関する論点を提示してもらったうえで、議論を通して当該テーマに関する理解を深める。）</p> <p>○成績評価方法</p> <p>[S semester] 毎回の授業に対するコメントの提出、および学期末におけるレポートの提出、そして平常点などを勘案して成績評価を行う。</p> <p>[A semester] 平常点とレポートによる。</p> <p>○教科書 追って指示する。</p> <p>○参考書 李鍾元・木宮正史・浅野豊美編『歴史としての日韓国交正常化Ⅰ 東アジア冷戦編・Ⅱ 脱植民地化編』法政大学出版局、2011 年など。</p>		

分野／総論（総合文化研究科） Field : Liberal Art and Sciences

単位／2 Credit : 2

書き直される中国近現代史Ⅷ ～国際社会科学特別講義Ⅳ～

Specific Lecture: International Studies IV

科目番号 Course ID Number	31M230-1140A 31D230-1140A	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	川島真（総合文化研究科） Shin Kawashima (Art and Sciences)	場 所 Venue	TBA
授業時間 Semester/Time	A semester、木 (Thu)、4時限（14:55-16:40）	キーワード Keywords	国際関係史、国際政治史、東洋史、地域研究、東アジア外交史、中国史
履修上の注意 Important points	この講義は、ASNET「日本・アジア学」講座 2015 年度冬学期授業として、また東京大学現代中国研究拠点（社会科学研究所）の事業として実施される (http://web.iss.u-tokyo.ac.jp/kyoten/asnet/)。		

授業内容 The contents of a lesson

- 授業の目標・概要
東京大学社会科学研究所を中心に進められている現代中国研究拠点では、ここ数年「書き直される中国近現代史」というオムニバス形式の講義を秋学期に実施してきた。今年は第七回目にあたるが、以下のように「中国史の境界線－異質・多元・包摂－」と題した講義をおこなう。
「中国史」という枠組みは、国民国家建設の過程として生み出された物語であることは言うまでも無いが、現在も不断に修正され、強化されている。しかし、他方で歴史研究の現場では、「中国史」への問いが提起されて既に二十年以上を経ている。
その間に、「中国史」の境界線ではいろいろな新たなナラティブや観点が提供されてきている。それは一面で中国史の単調な主旋律にさまざまな副旋律やリズムを与え、中国史を豊かにしているが、同時に中国史のマクロヒストリーそのものを根本から問い直し、ミクロヒストリーの次元から再構成する試みもなされている。そして、そこには中国史と距離をとった新たな領域が創成されている。この授業では、そうした中国近現代史の境界線上で育まれている様々な試みや可能性を提示する。
授業はさまざまな世代の第一線の研究者によるオムニバス講義とする。中国で「少数民族」とされる人々の目線、また陸と海それぞれから見た中国史、香港・台湾から見た中国史、さらには「中国史」創出そのものの過程などを組み合わせている。
- 成績評価方法
出席と学期末のレポートによる
- 参考書
毎回の授業時に指定される。

- 授業の方法
学内外の教員、ゲストによるオムニバス形式の講義。

- 9月17日（木）休講
9月24日（木）第一回講義 ガイダンス・川島真
杉山清彦（東京大学）「満洲史と“中国史”」（仮題、以下同じ）
10月 1日（木）第二回講義 橋誠（下関市立大学）
「モンゴルから見た“中国史”」
10月 8日（木）第三回講義 中見立夫（アジア・アフリカ言語文化研究所）
「内陸アジアから見た近代中国」
10月15日（木）第四回講義 菊池秀明（国際基督教大学）
「西征時期(1853～56年)の太平天国と湘軍の地域経営」
10月22日（木）第五回講義 倉田徹（立教大学）
「香港における／香港からみた中国近現代史」
10月29日（木）第六回講義 村田雄二郎（東京大学）
「形作られる中国とその歴史」
11月 5日（木）第七回講義 上田信（立教大学）
「海の中国史」
11月12日（木）第八回講義 村上衛（京都大学）
「海から見る中国近代史」
11月19日（木）第九回講義 阿部由美子（日本学術振興会）
「満洲からみた辛亥革命と民国」
11月26日（木）第十回講義 山本真（筑波大学）
「福建移民の世界」
12月 3日（木）第十一回講義 島田美和（慶應義塾大学）
「内モンゴルにとっての日中戦争」
12月10日（木）第十二回講義 川島真（東京大学）
「台湾における台湾史と中華民国史のあいだ」
具体的な講義内容は、<http://web.iss.u-tokyo.ac.jp/kyoten/asnet/>を確認ください。

分野／社会・文化論（人文社会系研究科） Field : Society and Culture

単位／4 Credit : 4

世界史研究の方法 ～比較アジア社会文化論演習～

科目番号 Course ID Number	21152863	使用言語 Language	英語、日本語 English, Japanese
担当教員 Teacher	羽田 正（東文研） Masashi Haneda (Advanced Studies on Asia)	場 所 Venue	東洋文化研究所 806 号室 Room806, Institute for advanced Studies on Asia, Hong Campus
授業時間 Semester/Time	All year、金 (Fri)、3時限（13:00-14:45）	キーワード Keywords	世界史、グローバルヒストリー World History, Global History

授業内容 The contents of a lesson

- 授業の目標・概要
①最近の国内外における新しい世界史研究の潮流を理解すること、②世界史や global history に関連する書籍を読み、参加者の間で討論して、世界史をどのように理解し、叙述すべきかについて、見通しを得ること
- 授業の方法
指定された関連文献（英語、日本語）を全員があらかじめ読んだ上で授業に参加する。担当者による内容紹介とコメントをもとに、全員で議論を行う。
- 成績評価方法
出席と担当報告の内容による
- 教科書
第1回目の授業の際に指定し、適宜コピーを用意する

グローバル・ヒストリーとアジア (1) ～アジア史学演習～ (S セメスター)

グローバル・ヒストリーとアジア (2) ～アジア史学演習～ (A セメスター)

科目番号 Course ID Number	21152854 (S セメスター) 21152855 (A セメスター)	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	水島 司 (人文) Tsukasa Mizushima (Humanities and Sociology)	場 所 Venue	法文 1 号館 424 研究室 Room 424, Law and Letters Building 1, Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	S semester、月 (Mon)、5 時限 (16:50-18:50) A semester、月 (Mon)、5 時限 (16:50-18:50)	履修上の注意 Important points	S セメスターは 4 月 6 日開講 A セメスターは 9 月 21 日開講
授業内容 The contents of a lesson	<p>○授業の目標・概要 欧米の直接の植民地支配、あるいは植民地支配の脅威の下で、自立した国民経済の建設を願うアジアの国・民族は、19 世紀後半から 20 世紀にかけて、最も基幹的な近代産業としての製鉄業に参入していった。それには、国家や植民地支配を受けている民族資本はもちろん、植民地統治者までもが加わり、それらが複雑に関わりながら、新たな空間に鉄鋼都市の建設が行われた。授業では、インドのジャムシェドプール、中国の鞍山、日本の八幡を対象に、GIS（地理情報システム）の技法を身につけながら、それらの鉄鋼都市の空間的な成長と、鉄鋼業に関わる諸問題を先行研究から学ぶと共に、グローバル・ヒストリーの観点からアジアでの製鉄業の歴史的意義を考える。</p> <p>○授業の方法 【S セメスター】 4 月から 5 月にかけて、参加者は、GIS の基本的な技法を学び、対象とする都市のベース・マップを作成する。6 月から 7 月にかけては、各都市の製鉄業に関する先行研究を分担を決めて紹介する。9 月以降は、先行研究の学習と並行して、民族資本、タタ財閥、満鉄等について購読しながら、人口動向、空間形成、都市のレイアウトと各空間の機能、他の都市および地域社会との関係などをテーマにして分析し、その結果を報告する。また、こうした都市分析に必要な GIS ソフトの使い方についての基礎的学習も行なう。</p> <p>【A セメスター】 9 月からは、先行研究の学習と並行して、民族資本、タタ財閥、満鉄等について購読しながら、人口動向、空間形成、都市のレイアウトと各空間の機能、他の都市および地域社会との関係などをテーマにして分析し、その結果を報告する。また、こうした都市分析に必要な GIS ソフトの利用に習熟する。</p> <p>○成績評価方法 無断欠席は 1 回、あるいはどういう理由であれ 3 回以上欠席した場合は、単位を認定しない。評価は、演習での報告のハンドアウトの内容、終了時点で提出するレポート、および演習での議論への参加度などで行なう。</p> <p>○教科書 初回に指示する。</p> <p>○参考書 参加者が対象とする都市毎に指示する。</p> <p>○履修上の注意 初回の演習時から、各自のパソコンを持参すること。パソコンを所有していない学生は、演習室のパソコンを利用することになる。</p>		

近代アジアの開発と社会変化 (1) ～比較アジア社会文化論演習～ (S セメスター)

近代アジアの開発と社会変化 (2) ～比較アジア社会文化論演習～ (A セメスター)

科目番号 Course ID Number	21152864 (S セメスター) 21152865 (A セメスター)	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	水島 司 (人文) Tsukasa Mizushima (Humanities and Sociology)	場 所 Venue	法文 1 号館 424 研究室 Room 424, Law and Letters Building 1, Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	S semester、月 (Mon)、4 時限 (14:55-16:40) A semester、月 (Mon)、4 時限 (14:55-16:40)	履修上の注意 Important points	S セメスターは 4 月 6 日開講 A セメスターは 9 月 21 日開講
授業内容 The contents of a lesson	<p>○授業の目標・概要 近現代のアジア地域に関し、その開発と社会変化に関する先行研究を読み、方法論、史料分析について学ぶと共に、歴史地理情報システムを用いた歴史地図の作成方法と歴史空間情報データベースの利用方法を習得する。</p> <p>○授業の方法 アジアの近現代経済史に関する重要な研究文献、政府報告書を講読し、それらの読解に必要な各種工具書の使い方や歴史分析に有効な歴史地理情報システムの手法を身につける。出席者は毎回事前に予習をして授業にのぞみ、文献や資料を講読する。</p> <p>○成績評価方法 1 回の無断欠席および 3 回以上欠席した場合は、単位を認定しない。評価は、ハンドアウトの内容、授業での議論への参加度、最後に提出するレポートで行なう。</p> <p>○教科書 授業中に指示する。</p> <p>○履修上の注意 演習参加者は、パソコンを用意する。パソコンを所有していない場合は、研究室のパソコンを利用する。</p>		

分野 / 社会・文化論 (人文社会系研究科) Field : Society and Culture

単位 / 2 Credit : 2

韓国朝鮮対照民族誌 ～韓国朝鮮言語社会特殊研究～

科目番号 Course ID Number	21156504	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	本田 洋 (人文) Hiroshi Honda (Humanities and Sociology)	場 所 Venue	法文 1 号館 112 教室 Room 112, Law and Letters Building 1, Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	S semester、火 (Tue)、5 時限 (16:50-18:35)		
授業内容 The contents of a lesson	<p>○授業の目標・概要 近代化、産業化とグローバル化の過程における地域社会の変化を対象とした民族誌的研究のひとつの対照事例として、担当教員が 1980 年代末から現在に至るまで韓国南西部南原地域で行なってきたフィールドワークの成果について、朝鮮半島中・南部の農村社会を対象とした民族誌の先行研究と相互参照しつつ記述分析を試みる。家族の再生産戦略の再編成と村落コミュニティの再生産、ならびに都市から農村への移住者の生き方とコミュニティ構築等を事例として取り上げ、持続性の高い生活・関係性とその再生産の諸条件の急激な変化とのあいだの折り合いの付けられ方や地域・コミュニティ開発に能動的に参与する行為主体の形成について論ずる。</p> <p>○授業の方法 授業は基本的に講義形式で行うが、電子メールでリアクション・ペーパーを提出してもらい、授業中にそれに対する回答やコメントを行うことで、相互性を確保する。初回はイントロダクション、2 回目は対照民族誌の方法と持続性と変化を捉える視角についての解説を行ったうえで、3 回目から本論に入る。トピックとしては、小農＝儒教社会の持続性、植民地近代的変容、家族の再生産戦略のスペクトラム、産業化と再生産条件の変化、家族の再生産戦略の再編成、村落コミュニティの再生産、都市から農村への移住とオルターナティブな生き方の追求、帰農者の生き方と関係構築、地域・コミュニティ開発における主体形成等を取り上げる予定である。</p> <p>○成績評価方法 平常点と期末レポートによる</p>		

分野 / 社会・文化論 (人文社会系研究科) Field : Society and Culture

単位 / 2 Credit : 2

民族誌と歴史 ～韓国朝鮮言語社会演習～

科目番号 Course ID Number	21156553	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	本田 洋 (人文) Hiroshi Honda (Humanities and Sociology)	場 所 Venue	赤門総合研究棟 赤門 723 演習室 Seminar Room 723, Akamon General Bldg., Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	S semester、月 (Mon)、3 時限 (13:00-14:45)		
授業内容 The contents of a lesson	<p>○授業の目標・概要 韓国朝鮮社会を社会・文化人類学的な観点から研究する方法について、民族誌的研究手法と歴史人類学・歴史民族誌的な様々な試みを中心に検討する。関連文献の購読と研究発表を併行しておこなう。</p> <p>○授業の方法 授業は演習形式で行う。初回にガイダンスを行い、2 回目から文献購読に入る。講読する文献には一部、日本語のものも含まれるが、主体は韓国語と英語で書かれたものとなる。受講者は韓国語の基礎的な読解能力を具備していることが望ましいが、英語文献の発表や討論への積極的な参加が可能であれば、必ずしも韓国語が分からなくても受講を歓迎する。また、修士課程 2 年以上の受講者については個人研究発表の機会も設ける。</p> <p>○成績評価方法 平常点 (出席状況、発表、討論、その他授業への参加姿勢)。</p> <p>○履修上の注意 開講日は韓国朝鮮文化研究室 (korea@l.u-tokyo.ac.jp) に問い合わせること。初回に必ず出席すること。</p>		

Advanced Lectures on Sociotechnology

科目番号 Course ID Number	3713071	使用言語 Language	English																								
担当教員 Teacher	Professor Hideyuki Horii (Engineering) Dr. Shunsaku Komatsuzaki (Engineering)	場 所 Venue	工学部 1 号館 17 講義室 Room 17, Faculty of Engineering, Bldg.1																								
授業時間 Semester/Time	夏学期 (Summer)、金 (Fri)、3 時限 (13:00-14:45)																										
授業内容 The contents of a lesson	<p>Objective of the course: 社会問題およびその解決事例を取り上げ、ケースメソッドによる学習とケースに基づくイノベーションワークショップを通じて、社会技術に関わる知識、問題分析方法・能力、問題解決策立案方法・能力を習得する。学期前半では主にケースメソッドによる学習、後半はイノベーションワークショップを中心とする。Contemporary social problems, such as BSE and the Great East Japan Earthquake, cannot be solved by any single discipline and we must have a competency to manage, or even initiate, multidisciplinary problem solving. Sociotechnology (Shakai-Gijutsu) is a means to solve societal issues by a multidisciplinary approach using natural and social scientific knowledge and methodologies.</p> <p>You students are expected to learn the abilities and knowledge of Sociotechnology by case method. In the first half of the semester, using orthodox case method, you will learn methods to analyze problem and a logical process to reveal fundamental cause(s). In the second half, you will create new case(s) by employing the methods and knowledge you learn in the first half. You will finally acquire the competency to practice the methods and knowledge of Sociotechnology to solve social problems in the real world.</p> <p>Related courses: "Sociotechnology" (Undergrad, Japanese, winter semester) "Case studies of international project" (Undergrad, Japanese, summer semester) "Advanced case studies of international project" (Graduate, English?, winter semester)</p> <p>Recommended reading (in Japanese): "Sociotechnology: Design for Problem Solution" (Hideyuki Horii, 2012, The University of Tokyo Press)</p> <p>Outline of the course: [The First Half: Case Method] 1. Brazil Electricity Crisis (Kennedy)</p> <table border="1"> <tr> <td>Objectives:</td> <td>Clarify the overall structure of problem, find fundamental cause(s), policy process analysis</td> </tr> <tr> <td>Related courses:</td> <td>"Infrastructure management" (Graduate, English, summer semester) "Project management" (Undergrad, Japanese, winter semester) "Introduction to international project" (Undergrad, Japanese, winter semester) "Public management" (Undergrad, Japanese, winter semester)</td> </tr> <tr> <td>Reference:</td> <td>「発送電分離の政治経済学—世界の電力セクター改革からの教訓」(長山浩章, 2012, 東洋経済新報社) 「国際インフラ事業の仕組みと資金調達—事業リスクとインフラファイナンス」(加賀隆一, 2010年, 中央経済社) Shively, B. and Ferrare, J. (2010) "Understanding today's electricity business" Banks, J.P. (2006) "Privatization of the electricity sector in emerging markets", The electricity journal, 19(9), 45-54. Besant-Jones, J. and Tenenbaum, B. (2001) "The California power crisis: Lessons for developing countries", Energy and mining sector board discussion paper series, 1, World Bank.</td> </tr> </table> <p>2. Hurricane Katrina (A)-(C) (Kennedy)</p> <table border="1"> <tr> <td>Objectives:</td> <td>Clarify the overall structure of problem, find fundamental cause</td> </tr> <tr> <td>Related courses:</td> <td>"Natural Disasters and Urban Disaster Prevention" (Graduate/Undergrad, Japanese, winter semester) "Urban Disaster Mitigation Engineering" (Graduate, English, summer semester)</td> </tr> <tr> <td>Reference:</td> <td>「カトリーナが洗い流せなかった貧困のアメリカ」等多数。 Dyson, M.E. (2007) "Come Hell or High Water: Hurricane Katrina and the Color of Disaster"</td> </tr> </table> <p>3. Accident at Fukushima Dai-ichi Nuclear Power Station (UT)</p> <table border="1"> <tr> <td>Objectives:</td> <td>Clarify the overall structure of problem, find fundamental cause, design solution</td> </tr> <tr> <td>Related courses:</td> <td></td> </tr> <tr> <td>Reference:</td> <td>「制度と文化：組織を動かす見えない力」(佐藤郁哉・山田真茂留, 2004年, 日本経済新聞出版社) 「津波と原発」(佐野眞一, 2011年, 講談社) Sovacool, B. and Valentine, S.V. (2012) "The National Politics of Nuclear Power: Economics, Security, and Governance"</td> </tr> </table> <p>[The Second Half: Case Analysis and Innovation Workshop] Students will experience a trial of innovation workshop to create a new idea of social innovation. Students are asked to analyze existing cases of social innovations and enterprises and to create a new idea utilizing "analogy". The process of innovation workshop has been developed in i.school of the University of Tokyo. http://ischool.t.u-tokyo.ac.jp/english</p> <p>Grade:</p> <table> <tr> <td>Attendance</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>Short Report / Presentation</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>Contribution to Innovation Workshop (required)</td> <td>30%</td> </tr> </table> <p>Note: This course does not allow "withdrawal". If your grade does not reach 50, you will simply fail. Be careful of this condition when you register for this course.</p> <p>Software: The free software below would be useful for analysis of problem. [For Japanese Windows users] IdeaFragment2 http://nekomimi.la.coocan.jp/freesoft/ideafrg2.htm iEdit http://homepage3.nifty.com/kondoumh/software/iedit.html [For Mac OS, Linux, or international Windows users] VUE (Visual Understanding Environment) http://vue.tufts.edu/</p>			Objectives:	Clarify the overall structure of problem, find fundamental cause(s), policy process analysis	Related courses:	"Infrastructure management" (Graduate, English, summer semester) "Project management" (Undergrad, Japanese, winter semester) "Introduction to international project" (Undergrad, Japanese, winter semester) "Public management" (Undergrad, Japanese, winter semester)	Reference:	「発送電分離の政治経済学—世界の電力セクター改革からの教訓」(長山浩章, 2012, 東洋経済新報社) 「国際インフラ事業の仕組みと資金調達—事業リスクとインフラファイナンス」(加賀隆一, 2010年, 中央経済社) Shively, B. and Ferrare, J. (2010) "Understanding today's electricity business" Banks, J.P. (2006) "Privatization of the electricity sector in emerging markets", The electricity journal, 19(9), 45-54. Besant-Jones, J. and Tenenbaum, B. (2001) "The California power crisis: Lessons for developing countries", Energy and mining sector board discussion paper series, 1, World Bank.	Objectives:	Clarify the overall structure of problem, find fundamental cause	Related courses:	"Natural Disasters and Urban Disaster Prevention" (Graduate/Undergrad, Japanese, winter semester) "Urban Disaster Mitigation Engineering" (Graduate, English, summer semester)	Reference:	「カトリーナが洗い流せなかった貧困のアメリカ」等多数。 Dyson, M.E. (2007) "Come Hell or High Water: Hurricane Katrina and the Color of Disaster"	Objectives:	Clarify the overall structure of problem, find fundamental cause, design solution	Related courses:		Reference:	「制度と文化：組織を動かす見えない力」(佐藤郁哉・山田真茂留, 2004年, 日本経済新聞出版社) 「津波と原発」(佐野眞一, 2011年, 講談社) Sovacool, B. and Valentine, S.V. (2012) "The National Politics of Nuclear Power: Economics, Security, and Governance"	Attendance	30%	Short Report / Presentation	40%	Contribution to Innovation Workshop (required)	30%
Objectives:	Clarify the overall structure of problem, find fundamental cause(s), policy process analysis																										
Related courses:	"Infrastructure management" (Graduate, English, summer semester) "Project management" (Undergrad, Japanese, winter semester) "Introduction to international project" (Undergrad, Japanese, winter semester) "Public management" (Undergrad, Japanese, winter semester)																										
Reference:	「発送電分離の政治経済学—世界の電力セクター改革からの教訓」(長山浩章, 2012, 東洋経済新報社) 「国際インフラ事業の仕組みと資金調達—事業リスクとインフラファイナンス」(加賀隆一, 2010年, 中央経済社) Shively, B. and Ferrare, J. (2010) "Understanding today's electricity business" Banks, J.P. (2006) "Privatization of the electricity sector in emerging markets", The electricity journal, 19(9), 45-54. Besant-Jones, J. and Tenenbaum, B. (2001) "The California power crisis: Lessons for developing countries", Energy and mining sector board discussion paper series, 1, World Bank.																										
Objectives:	Clarify the overall structure of problem, find fundamental cause																										
Related courses:	"Natural Disasters and Urban Disaster Prevention" (Graduate/Undergrad, Japanese, winter semester) "Urban Disaster Mitigation Engineering" (Graduate, English, summer semester)																										
Reference:	「カトリーナが洗い流せなかった貧困のアメリカ」等多数。 Dyson, M.E. (2007) "Come Hell or High Water: Hurricane Katrina and the Color of Disaster"																										
Objectives:	Clarify the overall structure of problem, find fundamental cause, design solution																										
Related courses:																											
Reference:	「制度と文化：組織を動かす見えない力」(佐藤郁哉・山田真茂留, 2004年, 日本経済新聞出版社) 「津波と原発」(佐野眞一, 2011年, 講談社) Sovacool, B. and Valentine, S.V. (2012) "The National Politics of Nuclear Power: Economics, Security, and Governance"																										
Attendance	30%																										
Short Report / Presentation	40%																										
Contribution to Innovation Workshop (required)	30%																										

Case Studies of International Projects

科目番号 Course ID Number	3713073	使用言語 Language	English
担当教員 Teacher	Professor Hideyuki Horii (Engineering) Professor Hironori Kato (Engineering) Mr. Takashi Kumon (Engineering) Dr. Shunsaku Komatsuzaki (Engineering) Dr. So Morikawa (Engineering)	場 所 Venue	工学部 1 号館 17 講義室 Room 17, Faculty of Engineering, Bldg.1

授業時間 Semester/Time	冬学期 (Winter)、水 (Wed)、3 時限 (13:00-14:45)
-----------------------	---

授業内容 The contents of a lesson	<p>Course objectives: 国際プロジェクトに関わる事例を取り上げ、ケースメソッドによる学習を通じて、国際プロジェクトに関わる知識、問題分析方法・能力、問題解決策立案方法・能力を習得する。特に、それぞれ専門知識を持った教員の下での学習を行うことによって、各ケースに関わる専門知識を身につけることも求められる。We civil engineers are involved not only in construction of infrastructure but also in solving a variety of social problems. For example, the Great East Japan Earthquake set a new task to build new embankments along the Sanriku Coast. It is not a purely technical issue but a social one as social acceptance would be necessary to build those embankments. Even experts of structural mechanics cannot avoid or ignore it. The same thing can be said to international project; for example, Kotopanjang Dam project in Indonesia caused a strong public opposition, which was actually evoked by NGO, and ended in court. You, as future civil engineers, must have competencies to deal with such various aspects of international project.</p> <p>Students are expected to learn the skills of problem solving (analysis, evaluation and forecast) and solution design and the professional knowledge of international project through case method in this course. The instructors with different professional backgrounds will give you an opportunity to learn a wide range of expertise to manage and/or initiate international project in future.</p>
----------------------------------	---

Related courses:

- "Advanced Lectures on Sociotechnology" (Graduate, English, summer semester)
- "Infrastructure Management" (Graduate, English, summer semester)
- "Sociotechnology" (Undergrad, Japanese, winter semester)
- "Case studies of international project" (Undergrad, Japanese, summer semester)

Outline of the cases:

- Resettlement Problem in Batangas Port Development Project in Philippines (UT) = Prof. Kato

Objectives:	To learn the process of consensus-building in infrastructure project in developing country
Related courses:	Social decision-making Theory (Prof. Kato, undergraduate, winter, in Japanese)
Reference:	N/A
- The negotiation process of power interconnection between Bangladesh and India: The role of ADB (UT) = Dr. Komatsuzaki

Objectives:	Learning the problem of international negotiation and the methods of problem analysis
Related courses:	Advanced Lectures on Sociotechnology (Prof. Horii and Dr. Komatsuzaki, graduate, summer, in English)
Reference:	N/A
Guest	Mr. Yongping Zhai, Mr. Naoki Sakai and Mr. Len George from ADB
- Congestion Pricing for Stockholm (Kennedy) = Prof. Horii

Objectives:	Learning the implementation process of solution to social problem and the role of leadership
Related courses:	N/A
Reference:	Eliasson, J., Jonsson, L., (2011). The unexpected yes!: Explanatory factors behind the positive attitudes to congestion charges in Stockholm, <i>Transport Policy</i> , 18: 636-647. Eliasson, J., (2009). Expected and unexpected in the Stockholm Trial, <i>Congestion taxes in city traffic. Lessons learnt from the Stockholm Trial</i> , Nordic Academic Press
- TBA = Dr. Morikawa

Objectives:	
Related courses:	
Reference:	
- Unilever in India: Hindustan Lever's Project Shakti - Marketing FMCG to the Rural Consumer (HBS) = Mr. Kumon

Objectives:	Learning BOP business, how to enter foreign market, and evaluation of strategy
Related courses:	N/A
Reference	N/A

Grade:

Attendance	30%
Contribution in each case	70%

Note: This course does not allow "withdrawal". If your grade does not reach 50, you will simply fail. Be careful of this condition when you register for this course.

アジアの食と農・環境 ～農学国際特論Ⅲ～

Food, agriculture and environment in Asia

科目番号 Course ID Number	3910132（農学国際特論Ⅲ）	使用言語 Language	英語 English
担当教員 Teacher	井上 真（農学生命科学研究科） Makoto Inoue (Agriculture)	場 所 Venue	農学部 7 号館 B 棟講義室 Lecture room at Bldg.7B (7B-231/232), Faculty of Agriculture, Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	All year、集中講義 (Intensive)、10:00-17:00	キーワード Keywords	気候変動、生物多様性、共用資源、順応、社会生態系 climate change, biodiversity, common pool resources, adaptation, social ecological systems
履修上の注意 Important points	出席により評価する。単位取得のためには年間「4回」の出席が必要である。 Evaluation is based on the attendance. The credit requires five attendances in a year.		
授業内容 The contents of a lesson	<p>○授業の目標・概要 アジアの食料、農業および環境問題の現状と解決策について、俯瞰的な視野を持つとともに、ローカルな現場のリアリティに立脚して検討できるような複眼的な視点を養う。 To acquire multiple viewpoints for tackling the problems of agriculture and environment against the reality at the local as well as global scales.</p> <p><Food, agriculture and environment in Asia> 1. Purpose: To acquire plural viewpoints for tackling the problems of agriculture and environment. 2. Contents (1) April 25, 2015: Climate Change: Economics, Environment and Public Policy (by Prof. Karachepone N. Ninan, Centre for Economics, Environment and Society India) (2) June 27, 2015: The Economic and Institutional Aspects of Biodiversity Conservation (by Prof. Karachepone N. Ninan, Centre for Economic Environment and Society India) (3) July 25, 2015: Managing Common Pool Natural Resources (by Prof. Ganesh P. Shivakoti, Asian Institute of Technology, Thailand) (4) October 31, 2015: Climate Change, Social Ecological Systems and Community Adaptations in Managing Agricultural and Forestry Resources in Asia (by Prof. Ganesh P. Shivakoti, Asian Institute of Technology, Thailand) (5) December 19, 2015: Understanding Social Ecological Systems for an Effective Implementation of National REDD+ Policies in Asia (by Prof. Ganesh P. Shivakoti, Asian Institute of Technology, Thailand) 3. Expected ability to be acquired: Well-balanced deliberation in accordance with the reality in the local context as well as global viewpoints.</p> <p>○授業の方法 外国人客員教員等が、上記のテーマに関して一日ずつ集中講義を英語で行う。 Visiting professors will give intensive lectures as listed above.</p> <p>○成績評価方法 出席により評価する。単位取得のためには年間「4回」の出席が必要である。 Evaluation is based on the attendance. The credit requires four attendances in a year.</p>		

アマルティア・センの正義論 ～汎アジア経済論Ⅳ～

Pan-Asian Economics IV

科目番号 Course ID Number	3905128	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	池本幸生（東文研） Yukio Ikemoto (Advanced Studies on Asia)	場 所 Venue	東洋文化研究所 第2会議室 Meeting Room2, 3rd floor, Institute for advanced Studies on Asia, Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	A2&W term、水（Wed）、3時限（13:00-14:45）	キーワード Keywords	アマルティア・セン、正義論、ケイバビリティ・アプローチ Amartya Sen, The Idea of Justice, Capability Approach
履修上の注意 Important points	講義形式で解説していくので、特に正義論やセンのケイバビリティ・アプローチについての知識は前提としない。		
授業内容 The contents of a lesson	<p>○授業の目標・概要 Amartya Sen, The Idea of Justice（アマルティア・セン『正義のアイデア』明石書店）を読んでいく。社会をもっと正義に合ったものに変えていくために、どのようにアプローチすべきかを考える。それは、「正義とは何か」を考えるような抽象的な議論ではなく、目の前にある問題を克服するために、どう進むべきかを考えるアプローチである。そのためには、人々の暮らしを直接捉えようとするケイバビリティという概念を用いること、それを用いてどう社会を変えていくかに合意するために民主的で理性的な討議を必要とすることをセンは主張する。</p> <p>○授業計画 アマルティア・センの The Idea of Justice を読んでいく。大著のため、各章の要点を解説する形で進めていく。</p> <p>○教科書 Amartya Sen, The Idea of Justice. (邦訳 アマルティア・セン『正義のアイデア』明石書店)。購入にあたっては割引されるケースもあるので、買う前に池本に相談してください。</p> <p>○成績評価方法 出席、授業中の発言、レポートによる。</p> <p>○関連ホームページ http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~ikemoto</p>		

分野／自然環境論（農学生命科学研究科） Field : Natural Environment

単位／2 Credit : 2

連帯経済とソーシャル・ビジネス ～汎アジア経済論Ⅲ～

Solidarity Economy and Social Business Pan-Asian Economics Ⅲ

科目番号 Course ID Number	3905127	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	池本幸生（東文研） Yukio Ikemoto (Advanced Studies on Asia)	場 所 Venue	農学部 1 号館地下 1 階 2-2 Room2-2, Faculty of Agriculture, Bldg.1, Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	S1&A1 term、水（Wed）、3 時限（13:00-14:45）	キーワード Keywords	連帯経済、ソーシャル・ビジネス、ケイパビリティ・アプローチ Solidarity Economy, Social Business, Capability Approach
履修上の注意 Important points	教科書に基づいて講義する。 Lecture will be given according to the textbook.		
授業内容 The contents of a lesson	<p>○授業の目標・概要 より良い社会を築いていくために、われわれはもつと互いのことをよく知り、相手の立場も理解し、アダム・スミスのいう「公平な観測者」の立場に立って議論していかなければならない。このことをアマルティア・センは『正義のアイデア』の中で主張しているように思われる。このアイデアを生かすひとつの方法は連帯経済である。われわれの周りには、有機農業を始めとして、そのような連帯を生かした活動が様々な形で存在する。本講義では、グラミン銀行や有機農業などの事例を取り上げ、それが、経済学で想定するような利己的な個人からなる経済とどのように異なるかを考えていく。 In order to make our society better we need to know more about each other and discuss with each other from the viewpoint of the impartial observer in the sense of Adam Smith. This seems to be the essence of Amartya Sen's book titled Idea of Justice. A way in this direction is the Solidarity Economy. In fact, there are many activities of this kind around us such as the movement of organic farming. We will take up some of the solidarity economies such as Grameen Bank organic farming etc. and discuss how they are different from the models of microeconomics composed of selfish people.</p> <p>○授業方法：講義形式</p> <p>○成績評価方法 講義の最後に提出するレポートによって評価する。 Evaluation is made according to the report at the end of the course.</p> <p>○教科書 池本幸生・松井範惇編著『連帯経済とソーシャル・ビジネス——貧困削減、富の再分配のためのケイパビリティ・アプローチ』2015 年 4 月 明石書店 Noriatsu Matsui& Yukio Ikemoto ed. Solidarity Economy and Social Business: New Models for a New Society (Springer Briefs in Economics) Springer 2015 March</p> <p>○参考書 アマルティア・セン『正義のアイデア』明石書店 2011 年 Amartya Sen, The Idea of Justice. 金氣興『地域に根ざす有機農業：日本と韓国の経験』筑波書房 2011 年</p> <p>○関連ホームページ http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~ikemoto</p>		

分野／健康論（医学系研究科） Field : Health Sciences

単位／2 Credit : 2

精神保健学 I

Mental Health I

科目番号 Course ID Number	41518211	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	川上憲人（医）、島津明人（医）、非常勤講師 Norito Kawakami (Medicine), Akihito Shimazu (Medicine)	場 所 Venue	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻（SPH）講義室 SPH Lecture Room, 13th Floor, Faculty of Medicine Experimental Research Bldg., Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	S semester、火（Tue）、5 時限（16:50-18:35）	履修上の注意 Important points	職場における精神保健対策について学ぶ「精神保健学Ⅱ」と関連する。

授業内容
The contents of a lesson

- 授業の目的
精神保健の疫学を理解し、効果的な第一次、第二次、第三次予防対策を立案することができるようになるために、精神保健疫学の基礎および精神保健対策の科学的根拠を学ぶと同時に、事例研究（ケーススタディ）を通じて基礎的かつ実践的な能力を身につけることを目的とする。
- 授業の方法
各回 1 テーマの講義あるいは事例研究（ケーススタディ）
担当教員（または非常勤講師）による講義を行う。あるいは学生がテーマに関して発表しこれに担当教員が補足を行い、全員で討論する。
- 教科書・参考書等
教科書は指定しない。毎回、講義資料を配付する。
- 成績評価方法
出席（25%）、課題発表（25%）およびレポート（50%）により総合的に評価する。

○授業計画

- | | |
|--------|--------------------------------------|
| 4月 7日 | 1) オリエンテーション、総論 |
| 4月 14日 | 2) 精神疾患の疫学 |
| 4月 21日 | 3) 精神健康の測定法とスクリーニング |
| 4月 28日 | 4) 精神保健のサービス利用 |
| 5月 12日 | 5) 精神健康と心理社会的支援 |
| 5月 19日 | 6) 課題発表 1：精神保健対策の科学的根拠（その 1） |
| 5月 26日 | 7) 課題発表 1：精神保健対策の科学的根拠（その 2） |
| 6月 2日 | (休講) |
| 6月 9日 | 8) トピックス①：自殺予防対策 |
| 6月 16日 | 9) トピックス②：精神保健行政の現状と課題 |
| 6月 23日 | 10) トピックス③：国際精神保健 |
| 6月 30日 | 11) トピックス④：災害時の精神保健 |
| 7月 7日 | (休講) |
| 7月 14日 | 12, 13) 課題発表 2：精神保健の対策を立案する（5, 6 限）※ |
- ※最終回のみ授業時間が 16:50-20:30 となるので注意すること。

精神保健学 II

Mental Health II

科目番号 Course ID Number	41518212	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	島津明人（医）、川上憲人（医）、非常勤講師 Akihito Shimazu (Medicine), Norito Kawakami (Medicine)	場 所 Venue	医学部・教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻講義室 Lecture Room, 13th Floor, Faculty of Medicine Experimental Research Bldg., Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	A2 & W term、火（Tue）、5 時限（16:50-18:35）	履修上の注意 Important points	精神保健疫学と対策の基礎について学ぶ「精神保健学 I」を受講していることが望ましい。
授業内容 The contents of a lesson	<p>○授業の目的 職場のメンタルヘルスの専門職として必要とされる知識・技術を、講義および事例研究とその後の討論によって習得することを目的とする。具体的には、制度・法規、利用者の状態および特性を踏まえた対応、関連職種間の連携、近年の社会経済情勢を踏まえた対策について学び、具体的な対策を現場で進めることのできる能力を養成する。</p> <p>○授業の方法 各回 1 テーマの講義あるいは事例研究（ケーススタディ） 担当教員（または非常勤講師）による講義と全員での討論。</p> <p>○教科書・参考書等 毎回、講義資料を配付する。</p> <p>○成績評価方法 出席（30%）、レポート（70%）により総合的に評価する。</p>		
	<p>○授業日程</p> <p>11 月 10 日 コース概要、産業精神保健総論 11 月 17 日 メンタル不調者対応の基本的な枠組み・専門職が留意すべきこと 11 月 24 日 産業保健マネジメントの中でのメンタルヘルス対策 12 月 1 日 外部 EAP によるメンタルヘルス支援 12 月 8 日 ワーク・ライフ・バランスとメンタルヘルス 12 月 15 日 腰痛とメンタルヘルス 12 月 22 日 職場のいじめとメンタルヘルス 1 月 5 日 経営と産業保健は協調できるか？ 1 月 12 日 組織・個人の活性化とポジティブメンタルヘルス 1 月 26 日 労働者の復職支援プログラム 2 月 2 日 中小規模事業所のメンタルヘルス対策 2 月 9 日 人事からみたメンタルヘルス対策 2 月 16 日 海外勤務者のメンタルヘルス支援 2 月 23 日 これからの職場のメンタルヘルス</p>		

健康教育学

Health Education

科目番号 Course ID Number	41518213	使用言語 Language	英語 English
担当教員 Teacher	橋本英樹（医） Hideki Hashimoto (Medicine)	場 所 Venue	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室 SPH Lecture Room, 13th Floor, Faculty of Medicine Experimental Research Bldg., Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	W term、金（Fri）、 1-2 時限（8:30-10:15、10:25-12:10）	講 師 陣 Lecturers	橋本英樹、岩永俊博（ヘルスプロモーション研究センター）、坂野純子（岡山県立大学）、戸津崎貴文（みずほ銀行）
履修上の注意 Important points	「予防保健の実践と評価」「健康増進科学」「社会と健康 II」などに関連する		

授業内容 The contents of a lesson	<p>○授業の目的 生活習慣・健康行動変容に関する理論を講義でまず鳥瞰した後、各理論のフレームを用いて実践的プログラム立案を行う上での長所・短所・限界点をクラス内ディスカッション・レポートで深める。</p> <p>○授業の方法 講義・ディスカッション</p> <p>○教科書・参考書等 Glanz K, et al. Health Behavior and Health Education; Theory, Research and Practice. 4th eds. John Wiley and Sons, 2008 畑 栄一, 土井 由利子. 行動科学—健康づくりのための理論と応用. 南江堂 第 2 版 他、適宜配布</p> <p>○成績評価の方法 出席ならびに講義中発言（40%）・課題およびレポート（60%）</p>		
	<p>○授業日程</p> <p>1/15 1) 1 限 Micro-meso level of behavioral theories I (橋本) 1/15 2) 2 限 Micro-meso level of behavioral theories II (橋本) 1/22 3) 1 限 Welfare and wellbeing (坂野) 1/22 4) 2 限 Salutogenesis and empowerment (坂野) (1・22 は 3 号館 1 階 N101 で実施) 1/29 5) 1 限 Empowerment approach in community I (岩永) 1/29 6) 2 限 Empowerment approach in community II (岩永) 2/ 5 7) 1 限 Population level of behavioral theories I (橋本) 2/ 5 8) 2 限 Population level of behavioral theories II (橋本) 2/12 9) 1 限 Health marketing in workplace I (戸津崎) 2/12 10) 2 限 Health marketing in workplace II (戸津崎) 2/19 11) 1 限 Health literacy and health promotion (橋本) 2/19 12) 2 限 Media communication and marketing (橋本) 2/26 13) 1 限 Decision making and public health ethics 2 限は予備</p>		

分野 / 健康論 (医学系研究科) Field : Health Sciences

単位 / 2 Credit : 2

医療コミュニケーション学講義

Health Communication Lecture

科目番号 Course ID Number	41518120	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	木内貴弘 (医)、石川ひろの (医) Takahiro Kiuchi (Medicine), Hirono Ishikawa (Medicine)	場 所 Venue	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室 SPH Lecture Room, 13th Floor, Faculty of Medicine Experimental Research Bldg., Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	S1 term、火 (Tue)、3-4 時限 (13:00-14:45、14:55-16:40)		
履修上の注意 Important points	○他の授業との関連 医療コミュニケーション学は、公衆衛生学・医学・医療のあらゆる分野と関係しているが、健康社会学、健康教育学、健康増進科学、医療安全管理学との関係が深い。		

授業内容 The contents of a lesson	○授業の目的 本講義の目的は、医療コミュニケーション (ヘルスコミュニケーション) の理論と実践を体系的に学習することにある。医療コミュニケーション学 (ヘルスコミュニケーション学) とは、医療・公衆衛生分野を対象としたコミュニケーション学であり、医療従事者間、医療従事者と患者市民間、患者市民間等における健康や医療に関連した知識や情報などのコミュニケーションを対象とする。医療コミュニケーションは、医学・医療と社会のインターフェイスとして、パブリックヘルス分野において、非常に重要な意味を持っている。従来、ヒト対ヒトのいわゆるヒューマンコミュニケーションを主体に考えられてきたが、現在では、これに加えて、インターネット、マスメディア、コンピュータ・ゲーム機等を介したコミュニケーションの意義・役割が増大している。本講義では、個人あるいは社会としての最適な健康上のアウトカムを得るために、医学・医療に関する知識・情報を、正確かつ効果的に伝達し、受け手に理解してもらうために必要な、(1) コミュニケーションの理論体系、(2) コミュニケーションの実務的方法論、(3) コミュニケーションの評価・分析方法等を取り扱うとともに、医療コミュニケーションの具体的な実践例の紹介と分析も行う (具体的な内容は右記の「授業計画及び内容」を参照のこと)。本講義の受講によって、医療コミュニケーションを実践し、改善していくために必要な基礎的な知識を得ることができる。	○授業日程																																												
	○参考文献 Athena du Pre. Communicating About Health: Current Issues and Perspectives. 4 th ed. Oxford University Press. 2013 Peter G. Northouse & Laurel L. Northouse 著・萩原明人訳・ヘルス・コミュニケーション 改訂版・九州大学出版会・2010 Debra L. Roter & Judith A. Hall 著・石川ひろの、武田裕子訳・患者と医師のコミュニケーションーより良い関係作りの科学的根拠・篠原出版新社・2007 藤崎和彦、橋本英樹 著・医療コミュニケーション研究会 編・医療コミュニケーションー実証研究への多面的アプローチ・篠原出版新社・2010 ○成績評価の方法 講義への出席 (30%)、レポート (70%) による。 ○授業の方法 ・ 各回 1 テーマの講義を行う。 ・ テーマに基づいた追加資料の配布や実例の紹介を行うことがある。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>日 時</th> <th>内 容</th> <th>担 当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4月7日(火) 13:00-14:45</td> <td>I. 医療コミュニケーション学総論 医療コミュニケーション学とは</td> <td>木内貴弘</td> </tr> <tr> <td>4月7日(火) 14:55-16:40</td> <td>II. 対人コミュニケーション カウンセリング入門</td> <td>久田満 (上智大学)</td> </tr> <tr> <td>4月14日(火) 13:00-14:45</td> <td>II. 対人コミュニケーション 患者市民からみた医療者との関係とコミュニケーション</td> <td>山口育子 (COML)</td> </tr> <tr> <td>4月14日(火) 14:55-16:40</td> <td>II. 対人コミュニケーション 保健医療専門職の教育とプロフェッショナルリズム</td> <td>北村聖 (医学教育国際研究センター)</td> </tr> <tr> <td>4月21日(火) 13:00-14:45</td> <td>I. 医療コミュニケーション学総論 医療コミュニケーションの評価と実証研究</td> <td>石川ひろの</td> </tr> <tr> <td>4月21日(火) 14:55-16:40</td> <td>III. メディア・コミュニケーション ヘルスケア営利企業の広報とコミュニケーション</td> <td>加藤美生 (日本エイライリー株式会社)</td> </tr> <tr> <td>4月28日(火) 13:00-14:45</td> <td>II. 対人コミュニケーション 個人の行動変容を促すコミュニケーション</td> <td>石川雄一 (日本ヘルスサイエンスセンター)</td> </tr> <tr> <td>4月28日(火) 14:55-16:40</td> <td>II. 対人コミュニケーション 集団の行動変容を促すコミュニケーション</td> <td>石川善樹 (株式会社キャンサースキャン)</td> </tr> <tr> <td>5月12日(火) 13:00-14:45</td> <td>III. メディア・コミュニケーション 新聞</td> <td>阿部文彦 (読売新聞)</td> </tr> <tr> <td>5月12日(火) 14:55-16:40</td> <td>III. メディア・コミュニケーション テレビ</td> <td>市川衛 (NHK)</td> </tr> <tr> <td>5月19日(火) 13:00-14:45</td> <td>III. メディア・コミュニケーション メディア報道と保健医療情報のコミュニケーション</td> <td>渡邊清高 (帝京大学)</td> </tr> <tr> <td>5月19日(火) 14:55-16:40</td> <td>III. メディア・コミュニケーション 個人の問題から社会の問題へ：自殺対策政策実現の裏側</td> <td>清水康之 (ライフリンク)</td> </tr> <tr> <td>5月26日(火) 13:00-14:45</td> <td>III. メディア・コミュニケーション インターネット</td> <td>中山和弘 (聖路加国際大学)</td> </tr> <tr> <td>5月26日(火) 14:55-16:40</td> <td>III. メディア・コミュニケーション エンターテインメント・エデュケーション</td> <td>石川ひろの</td> </tr> </tbody> </table>	日 時	内 容	担 当	4月7日(火) 13:00-14:45	I. 医療コミュニケーション学総論 医療コミュニケーション学とは	木内貴弘	4月7日(火) 14:55-16:40	II. 対人コミュニケーション カウンセリング入門	久田満 (上智大学)	4月14日(火) 13:00-14:45	II. 対人コミュニケーション 患者市民からみた医療者との関係とコミュニケーション	山口育子 (COML)	4月14日(火) 14:55-16:40	II. 対人コミュニケーション 保健医療専門職の教育とプロフェッショナルリズム	北村聖 (医学教育国際研究センター)	4月21日(火) 13:00-14:45	I. 医療コミュニケーション学総論 医療コミュニケーションの評価と実証研究	石川ひろの	4月21日(火) 14:55-16:40	III. メディア・コミュニケーション ヘルスケア営利企業の広報とコミュニケーション	加藤美生 (日本エイライリー株式会社)	4月28日(火) 13:00-14:45	II. 対人コミュニケーション 個人の行動変容を促すコミュニケーション	石川雄一 (日本ヘルスサイエンスセンター)	4月28日(火) 14:55-16:40	II. 対人コミュニケーション 集団の行動変容を促すコミュニケーション	石川善樹 (株式会社キャンサースキャン)	5月12日(火) 13:00-14:45	III. メディア・コミュニケーション 新聞	阿部文彦 (読売新聞)	5月12日(火) 14:55-16:40	III. メディア・コミュニケーション テレビ	市川衛 (NHK)	5月19日(火) 13:00-14:45	III. メディア・コミュニケーション メディア報道と保健医療情報のコミュニケーション	渡邊清高 (帝京大学)	5月19日(火) 14:55-16:40	III. メディア・コミュニケーション 個人の問題から社会の問題へ：自殺対策政策実現の裏側	清水康之 (ライフリンク)	5月26日(火) 13:00-14:45	III. メディア・コミュニケーション インターネット	中山和弘 (聖路加国際大学)	5月26日(火) 14:55-16:40	III. メディア・コミュニケーション エンターテインメント・エデュケーション
日 時	内 容	担 当																																												
4月7日(火) 13:00-14:45	I. 医療コミュニケーション学総論 医療コミュニケーション学とは	木内貴弘																																												
4月7日(火) 14:55-16:40	II. 対人コミュニケーション カウンセリング入門	久田満 (上智大学)																																												
4月14日(火) 13:00-14:45	II. 対人コミュニケーション 患者市民からみた医療者との関係とコミュニケーション	山口育子 (COML)																																												
4月14日(火) 14:55-16:40	II. 対人コミュニケーション 保健医療専門職の教育とプロフェッショナルリズム	北村聖 (医学教育国際研究センター)																																												
4月21日(火) 13:00-14:45	I. 医療コミュニケーション学総論 医療コミュニケーションの評価と実証研究	石川ひろの																																												
4月21日(火) 14:55-16:40	III. メディア・コミュニケーション ヘルスケア営利企業の広報とコミュニケーション	加藤美生 (日本エイライリー株式会社)																																												
4月28日(火) 13:00-14:45	II. 対人コミュニケーション 個人の行動変容を促すコミュニケーション	石川雄一 (日本ヘルスサイエンスセンター)																																												
4月28日(火) 14:55-16:40	II. 対人コミュニケーション 集団の行動変容を促すコミュニケーション	石川善樹 (株式会社キャンサースキャン)																																												
5月12日(火) 13:00-14:45	III. メディア・コミュニケーション 新聞	阿部文彦 (読売新聞)																																												
5月12日(火) 14:55-16:40	III. メディア・コミュニケーション テレビ	市川衛 (NHK)																																												
5月19日(火) 13:00-14:45	III. メディア・コミュニケーション メディア報道と保健医療情報のコミュニケーション	渡邊清高 (帝京大学)																																												
5月19日(火) 14:55-16:40	III. メディア・コミュニケーション 個人の問題から社会の問題へ：自殺対策政策実現の裏側	清水康之 (ライフリンク)																																												
5月26日(火) 13:00-14:45	III. メディア・コミュニケーション インターネット	中山和弘 (聖路加国際大学)																																												
5月26日(火) 14:55-16:40	III. メディア・コミュニケーション エンターテインメント・エデュケーション	石川ひろの																																												

医療コミュニケーション学演習

Health Communication Practice Training

科目番号 Course ID Number	41518122	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	木内貴弘（医）、石川ひろの（医） Takahiro Kiuchi (Medicine), Hirono Ishikawa (Medicine)	場 所 Venue	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻（SPH）講義室 SPH Lecture Room, 13th Floor, Faculty of Medicine Experimental Research Bldg., Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	S2 term、水（Wed）、3-4 時限（13:00-14:45、14:55-16:40）		
履修上の注意 Important points	「医療コミュニケーション学」講義の受講が望ましいが、「医療コミュニケーション学」講義の知識は前提としない。		

授業内容 The contents of a lesson	○授業の目的 医療コミュニケーションの実践に必要な演習を行うこと によって、「医療コミュニケーション学」の講義で学んだ様 々な理論や実践法に対する理解を深めるとともに、具体的 な医療コミュニケーションの場（医療機関、官公庁、教育機 関、研究機関、患者支援組織、マスコミ等）でこれらを生か すことができるようにすることを目的とする。	○授業日程																										
	○授業の方法 ・ 各回、課題にもとづいて演習・発表・討論を行う。 ・ 演習毎にプレゼンテーション、レポート提出、相互評価等 を行う。 ○教科書・参考書等 田近秀敏：[実践] ビジネス・コーチングプロフェッショ ナル・コーチの工具箱、PHP 研究所、2003 園田由紀（訳）：MBTI への招待—C.G. ユングの「タイプ論」 の応用と展開、金子書房、2002 梅田望夫：ウェブ進化論 本当の大変化はこれから始まる、 ちくま新書、2006 ○成績評価の方法 演習への参加（50%）、演習内でのプレゼンテーション （20%）、作成した資料・レポート（30%）によって評価す る。やむを得ず欠席する場合には、事前に事情を届け出れば、別 途レポートの提出に代える場合がある。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>日 時</th> <th>内 容</th> <th>担 当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6月10日(水) 13:00-16:40</td> <td>I. 対人コミュニケーション演習 MBTIに基づくコミュニケーション演習(1)</td> <td>園田由紀 (日本MBTI協会)</td> </tr> <tr> <td>6月17日(水) 13:00-16:40</td> <td>I. 対人コミュニケーション演習 MBTIに基づくコミュニケーション演習(2)</td> <td>園田由紀 (日本MBTI協会)</td> </tr> <tr> <td>6月24日(水) 13:00-16:40</td> <td>I. 対人コミュニケーション演習 MBTIに基づくコミュニケーション演習(3)</td> <td>園田由紀 (日本MBTI協会)</td> </tr> <tr> <td>7月1日(水) 13:00-16:40</td> <td>II. メディアコミュニケーション演習 インターネットコミュニケーション演習(1) 注意：ノートPC必要</td> <td>木内貴弘 石川ひろの</td> </tr> <tr> <td>7月8日(水) 13:00-16:40</td> <td>I. 対人コミュニケーション演習 コーチング演習</td> <td>田口智博 (三重大学)</td> </tr> <tr> <td>7月15日(水) 13:00-16:40</td> <td>II. メディアコミュニケーション演習 マス・コミュニケーション演習 ・新聞記事の執筆と評価（記者会見演習） ・既存の新聞記事の評価・分析 注意：ノートPC必要</td> <td>木内貴弘 石川ひろの</td> </tr> <tr> <td>7月22日(水) 13:00-16:40</td> <td>I. 対人コミュニケーション演習 接遇演習</td> <td>佐藤憂子 (東京歯科大学)</td> </tr> <tr> <td>7月29日(水) 13:00-16:40</td> <td>II. メディアコミュニケーション演習 インターネットコミュニケーション演習(2) 注意：ノートPC必要</td> <td>木内貴弘 石川ひろの</td> </tr> </tbody> </table>	日 時	内 容	担 当	6月10日(水) 13:00-16:40	I. 対人コミュニケーション演習 MBTIに基づくコミュニケーション演習(1)	園田由紀 (日本MBTI協会)	6月17日(水) 13:00-16:40	I. 対人コミュニケーション演習 MBTIに基づくコミュニケーション演習(2)	園田由紀 (日本MBTI協会)	6月24日(水) 13:00-16:40	I. 対人コミュニケーション演習 MBTIに基づくコミュニケーション演習(3)	園田由紀 (日本MBTI協会)	7月1日(水) 13:00-16:40	II. メディアコミュニケーション演習 インターネットコミュニケーション演習(1) 注意：ノートPC必要	木内貴弘 石川ひろの	7月8日(水) 13:00-16:40	I. 対人コミュニケーション演習 コーチング演習	田口智博 (三重大学)	7月15日(水) 13:00-16:40	II. メディアコミュニケーション演習 マス・コミュニケーション演習 ・新聞記事の執筆と評価（記者会見演習） ・既存の新聞記事の評価・分析 注意：ノートPC必要	木内貴弘 石川ひろの	7月22日(水) 13:00-16:40	I. 対人コミュニケーション演習 接遇演習	佐藤憂子 (東京歯科大学)	7月29日(水) 13:00-16:40	II. メディアコミュニケーション演習 インターネットコミュニケーション演習(2) 注意：ノートPC必要
日 時	内 容	担 当																										
6月10日(水) 13:00-16:40	I. 対人コミュニケーション演習 MBTIに基づくコミュニケーション演習(1)	園田由紀 (日本MBTI協会)																										
6月17日(水) 13:00-16:40	I. 対人コミュニケーション演習 MBTIに基づくコミュニケーション演習(2)	園田由紀 (日本MBTI協会)																										
6月24日(水) 13:00-16:40	I. 対人コミュニケーション演習 MBTIに基づくコミュニケーション演習(3)	園田由紀 (日本MBTI協会)																										
7月1日(水) 13:00-16:40	II. メディアコミュニケーション演習 インターネットコミュニケーション演習(1) 注意：ノートPC必要	木内貴弘 石川ひろの																										
7月8日(水) 13:00-16:40	I. 対人コミュニケーション演習 コーチング演習	田口智博 (三重大学)																										
7月15日(水) 13:00-16:40	II. メディアコミュニケーション演習 マス・コミュニケーション演習 ・新聞記事の執筆と評価（記者会見演習） ・既存の新聞記事の評価・分析 注意：ノートPC必要	木内貴弘 石川ひろの																										
7月22日(水) 13:00-16:40	I. 対人コミュニケーション演習 接遇演習	佐藤憂子 (東京歯科大学)																										
7月29日(水) 13:00-16:40	II. メディアコミュニケーション演習 インターネットコミュニケーション演習(2) 注意：ノートPC必要	木内貴弘 石川ひろの																										

国際地域保健学特論 I

Special Lecture in Community Health I

科目番号 Course ID Number	41422121	使用言語 Language	英語、日本語 English, Japanese
担当教員 Teacher	神馬征峰（医学系研究科） Masamine Jimba (Medicine)	場 所 Venue	教育研究棟のセミナー室（掲示を確認すること） Lecture Room, Faculty of Medicine Experimental Research Bldg., Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	S semester、金（Fri）、 3-4 時限（13:00-14:45、14:55-16:40）	履修上の注意 Important points	授業開始日：4月17日 Starting Date: April 17
授業内容 The contents of a lesson	詳細は医学系研究科国際保健学専攻（ http://www.sih.m.u-tokyo.ac.jp/ ）のウェブサイトでご確認ください。 Please check Websites of School of International Health（ http://www.sih.m.u-tokyo.ac.jp/ ） for further information.		

分野／健康論 (医学系研究科) Field : Health Sciences

単位／2 Credit : 2

健康社会学

科目番号 Course ID Number	41518214	使用言語 Language	英語 English																																							
担当教員 Teacher	橋本英樹 (医) Hideki Hashimoto (Medicine)	場 所 Venue	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室 SPH Lecture Room, 13th Floor, Faculty of Medicine Experimental Research Bldg., Hongo Campus																																							
授業時間 Semester/Time	A2 term、金 (Fri)、 1-2 時限 (8:30-10:15、10:25-12:10)	講 師 陣 Lecturers	橋本英樹、杉澤秀博 (桜美林大学)、朝倉隆司 (学芸大学)、中山和弘 (聖路加看護大学)																																							
履修上の注意 Important points	「社会と健康 I」「精神保健学」「医療倫理学」などと関連する																																									
授業内容 The contents of a lesson	<p>○授業の目的 社会学を基本軸として、健康を社会的文脈で考察する知的基盤を提供する。具体的には社会学理論を鳥瞰したうえで、健康科学との接点として医療・医師・社会的健康決定要因などを題材として取り扱う。</p> <p>○授業の方法 講義・ディスカッション</p> <p>○教科書・参考書等 Lupton D. <i>Medicine as culture; illness, disease, and the body</i>. 2nd eds. SAGE, 2003 他、適宜配布</p> <p>○成績評価の方法 出席ならびに講義中発言 (40%)・課題およびレポート (60%)</p>																																									
	<p>○授業日程</p> <table border="1"> <tr><td>11/ 6 1)</td><td>1 限</td><td>Perspective of sociology</td></tr> <tr><td>11/ 6 2)</td><td>2 限</td><td>Perspective of "Health/medical sociology"</td></tr> <tr><td>11/13 3)</td><td>1 限</td><td>Medicine as social system</td></tr> <tr><td>11/13 4)</td><td>2 限</td><td>Medicine as power politics</td></tr> <tr><td>11/20 5)</td><td>1 限</td><td>The social world of doctor</td></tr> <tr><td>11/20 6)</td><td>2 限</td><td>The social world of patient</td></tr> <tr><td>11/27 7)</td><td>1 限</td><td>Social support/network and health (杉澤)</td></tr> <tr><td>11/27 8)</td><td>2 限</td><td>Social stratification and health (橋本)</td></tr> <tr><td>12/ 4 9)</td><td>1 限</td><td>Culture and health (朝倉)</td></tr> <tr><td>12/ 4 10)</td><td>2 限</td><td>Alternative and holistic medicine (中山)</td></tr> <tr><td>12/11 11)</td><td>1 限</td><td>Lay epidemiology, illness behavior, and sociology of health promotion (橋本)</td></tr> <tr><td>12/11 12)</td><td>2 限</td><td>Sociology of body and emotion (橋本)</td></tr> <tr><td>12/18 13)</td><td>1 限</td><td>wrap up (2 限は予備)</td></tr> </table>			11/ 6 1)	1 限	Perspective of sociology	11/ 6 2)	2 限	Perspective of "Health/medical sociology"	11/13 3)	1 限	Medicine as social system	11/13 4)	2 限	Medicine as power politics	11/20 5)	1 限	The social world of doctor	11/20 6)	2 限	The social world of patient	11/27 7)	1 限	Social support/network and health (杉澤)	11/27 8)	2 限	Social stratification and health (橋本)	12/ 4 9)	1 限	Culture and health (朝倉)	12/ 4 10)	2 限	Alternative and holistic medicine (中山)	12/11 11)	1 限	Lay epidemiology, illness behavior, and sociology of health promotion (橋本)	12/11 12)	2 限	Sociology of body and emotion (橋本)	12/18 13)	1 限	wrap up (2 限は予備)
11/ 6 1)	1 限	Perspective of sociology																																								
11/ 6 2)	2 限	Perspective of "Health/medical sociology"																																								
11/13 3)	1 限	Medicine as social system																																								
11/13 4)	2 限	Medicine as power politics																																								
11/20 5)	1 限	The social world of doctor																																								
11/20 6)	2 限	The social world of patient																																								
11/27 7)	1 限	Social support/network and health (杉澤)																																								
11/27 8)	2 限	Social stratification and health (橋本)																																								
12/ 4 9)	1 限	Culture and health (朝倉)																																								
12/ 4 10)	2 限	Alternative and holistic medicine (中山)																																								
12/11 11)	1 限	Lay epidemiology, illness behavior, and sociology of health promotion (橋本)																																								
12/11 12)	2 限	Sociology of body and emotion (橋本)																																								
12/18 13)	1 限	wrap up (2 限は予備)																																								

分野／健康論 (医学系研究科) Field : Health Sciences

単位／2 Credit : 2

Human Ecology I

人類生態学特論 I

科目番号 Course ID Number	41522231	使用言語 Language	英語 English
担当教員 Teacher	渡辺知保 (医)、梅崎昌裕 (医) Chiho Watanabe (Medicine), Masahiro Umezaki (Medicine)	場 所 Venue	医学部 3 号館別棟 (掲示を確認すること) Medical Building 3 Annex
授業時間 Semester/Time	S semester、金 (Fri)、 1-2 時限 (8:30-10:15、10:25-12:10)	履修上の注意 Important points	開講日：4 月 10 日 Starting Date: April 10
授業内容 The contents of a lesson	<p>The primary goal of Human Ecology is to describe the interactions between human populations and their environments, and analyze them in terms of adaptation. The course examines such topics as population, nutrition, subsistence, disease, and environment in ecological perspectives. The classes will be given in a combination of lectures and discussions. Basic concepts, methodologies and relevant researches will be introduced by lecture; Depending on the topic, there will be reading assignments.</p> <ul style="list-style-type: none"> - Lectures and presentation will be done in English. - Textbooks/ Reference Books will be announced in the lecture. - Method of Evaluation : Attendance and participation to the class, term report. 		

分野／情報論 (学際情報学府) Field : Information Theory

単位／2 Credit : 2

Information, Technology, and Society in Asia 101:

Introduction to Asian Studies: History and International Relations - Lectures 2015

科目番号 Course ID Number	4971010	使用言語 Language	英語 English
担当教員 Teacher	松田康博 (情報学環)、田中明彦 (東文研)、池亀彩 (東文研) Yasuhiro Matsuda (Interfaculty Initiative in Information Studies), Akihiko Tanaka (Advanced Studies on Asia), Aya Ikegame (Advanced Studies on Asia)	場 所 Venue	東洋文化研究所 3 階、大会議室 Main Meeting Room, 3rd floor, Institute for Advance Studies on Asia, Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	冬学期 (Winter)、火 (Tue)、5 時限 (16:50-18:35)	キーワード Keywords	Asia, History, International Relations
授業内容 The contents of a lesson	<p>This course will offer students a series of lectures on Asian history and international relations with the aim of providing a solid foundation in the central topics and most recent scholarship in Asian Studies. This course is required by both M.A.S. and Ph.D. students in the ITASIA program (non-ITASIA students are also invited) and it aims to expand students' knowledge beyond a few specialized countries or areas in Asia by providing a broader perspective of Asia as a whole through the study of history.</p> <p>For further information, please check UT-mate.</p>		

Information, Technology, and Society in Asia 124: International Conflict Study

科目番号 Course ID Number	4971240	使用言語 Language	英語 English
担当教員 Teacher	藤原帰一（法学政治学研究科） Kiichi Fujiwara (Graduate Schools for Law and Politics)	場 所 Venue	法文1号館3階・第26番教室 Room 26, 3rd floor, Faculty of Law & Letters Bldg.1, Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	S semester、月 (Mon)、3 時限 (13:00-14:45)		
キーワード Keywords	国際紛争 地域紛争 破綻国家 国際介入 International Conflicts, Regional Conflicts, Failed States, International Intervention		
授業内容 The contents of a lesson	<p>What is an international conflict? Will it be possible to discuss the origins of international conflicts in more general and abstract ways, or would it be the case that each conflicts are so distinct in nature that rule out theoretical abstraction? Those are the basic topics that I aim to cover in this course. International conflicts encompass a wide terrain; here I will focus on what has come to be called the new kind of wars, those in which cultural symbols and identity play out in the development of violent conflicts, as opposed to the more traditional kind of warfare based on the acquisition of secular interests.</p> <p>For further information, please check UT-mate.</p>		

Information, Technology, and Society in Asia 128: Surviving Cancer in Asia

科目番号 Course ID Number	4971280	使用言語 Language	英語 English
担当教員 Teacher	赤座英之（情報学環）、河原ノリエ（情報学環） Hideyuki Akaza (Interfaculty Initiative in Information Studies), Norie Kawahara (Interfaculty Initiative in Information Studies)	場 所 Venue	福武ホール B2 階・福武ラーニングシアター Fukutake Learning Theater, B2, Fukutake Hall, Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	冬学期 (Winter)、月 (Mon)、5 時限 (16:50-18:35)		
授業内容 The contents of a lesson	<p>Changes in the disease structure in a globalizing Asia are contributing to a rapid increase in cancer in the region. Cancer is a complex disease that is deeply related to various factors, including genetic predisposition, living environment and lifestyle customs. Cancer represents a grave and common challenge in Asia, where social structures are undergoing significant transformations in all aspects, including in the economy, social security and also in family relationships. What is more, the common challenge of cancer is revealing contemporary issues for society as a whole in Asia. Advances in medicine mean that the number of people surviving cancer in Asia is also increasing and this survivorship and the need for long-term treatment and care is impacting the welfare of patients and their families. Both medical and welfare policies cover areas in which it is not possible to make judgments on the basis of economic considerations alone, given the ethical dimensions of such policies. The countries of Asia are now facing a period of transition in their social structures as societies continue to age, and the very real issue of striking a balance between limited economic and social resources on the one hand and what is acceptable in ethical terms on the other hand is an extremely difficult one to address. Given the difficulties in controlling it cancer cannot be overcome based on global health-based logic, which has functioned to date in countermeasures against communicable diseases. Furthermore, as the economy globalizes the market for anticancer drugs is expanding rapidly. The status of drug development itself is an issue that encompasses complex and dynamic factors, with national interests at stake. As such, the structure as it currently stands is not one that can be readily resolved by referring to conventional theories of medical sociology. This lecture series will be held in an omnibus style, with external lecturers being invited to talk about cancer in Asia from their various expert perspectives. The lecturers will delve into issues such as the characteristics of cancer in Asia and the various approaches for regional cooperation that will help to overcome it, examining the current status in the Asian region and the various challenges that are currently being faced.</p> <p>For further information, please check UT-mate.</p>		

Information, Technology, and Society in Asia 131: Modern Japanese Diplomacy

科目番号 Course ID Number	4971310	使用言語 Language	英語 English
担当教員 Teacher	近藤誠一 Seichi Kondo	場 所 Venue	法文1号館3階・第26番教室 Room 26, 3rd floor, Faculty of Law & Letters Bldg.1, Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	S semester、水 (Wed)、2 時限 (10:25-12:10)		
キーワード Keywords			
授業内容 The contents of a lesson	<p>Course Objectives/Overview The objective of this course is to analyze and understand the major characteristics of Japan's post-war foreign policies-commonalities and differences throughout the period that emerged from the development of international relations and restrictions inherent to Japan's past history, geopolitical conditions and location.</p> <p>Keywords Foreign policy, international relations, geopolitical conditions</p> <p>Schedule We first share the views on recent development of international relations, changing roles of states in managing the conflicts of national interests and establishing cooperation in various fields, such as national and regional security, economy & trade, and cultural exchanges. We touch upon growing roles played by non-state actors as well as ordinary citizens that gave rise to the importance of public diplomacy. We focus on specific events to see to what extent the basic characteristics of Japan's foreign are reflected.</p> <p>For further information, please check UT-mate.</p>		

分野／情報論 (学際情報学府) Field : Information Theory

単位 / 2 Credit : 2

Information, Technology, and Society in Asia 132:

Assimilation and Japanese Nationalism

科目番号 Course ID Number	4971320	使用言語 Language	英語 English
担当教員 Teacher	李賢鮮 (東洋文化研究所) LEE Hyunsun (Advanced Studies on Asia)	場 所 Venue	東洋文化研究所 3 階、第 2 会議室 Meeting Room 2, 3rd floor, Institute for Advance Studies on Asia, Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	冬学期 (Winter)、木 (Thu)、3 時限 (13:00-14:45)	キーワード Keywords	Nationalism, ethnicity, Japanese and Western societies
授業内容 The contents of a lesson	This course covers major concepts and debates about ethnicity and nationalism. Also, it focuses on nationalism and ethnicity in both contemporary Western and Japanese societies. For further information, please check UT-mate.		

分野／情報論 (学際情報学府) Field : Information Theory

単位 / 2 Credit : 2

Information, Technology, and Society in Asia 133:

Japanese Foreign Economic Policy

科目番号 Course ID Number	4971330	使用言語 Language	英語 English
担当教員 Teacher	飯田敬輔 (法学政治学研究科) Keisuke Iida (Graduate Schools for Law and Politics)	場 所 Venue	法文 1 号館 B2 演習室 Room B2, Faculty of Law & Letters Bldg.1, Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	A semester、水 (Wed)、4-5 時限 (14:55-18:35)	キーワード Keywords	Foreign Policy, Trade, Foreign Direct Investment, Japan, US-Japan Relations
授業内容 The contents of a lesson	The goal of this seminar is to understand how Japan's foreign economic policy is made and where its characteristics come from. This course is primarily intended for international students wanting to understand the political and economic underpinnings of Japan's foreign economic policy, but it will be also useful for students who anticipate practicing foreign economic policy in their professional life, or those who will help shape governmental foreign economic policy in the private sector. For further information, please check UT-mate.		

分野／情報論 (学際情報学府) Field : Information Theory

単位 / 2 Credit : 2

Information, Technology, and Society in Asia 143:

Understanding Taiwan and Japan in Global Settings

科目番号 Course ID Number	4971430	使用言語 Language	英語 English
担当教員 Teacher	園田茂人 (情報学環)、松田康博 (東文研) Shigeto Sonoda, Yasuhiro Matsuda	場 所 Venue	TBA
授業時間 Semester/Time	冬学期 (Winter)、集中 (Int)	キーワード Keywords	Understanding Taiwan, summer program, National Taiwan University
授業内容 The contents of a lesson	For further information, please check UT-mate.		



分野／情報論（学際情報学府） Field : Information Theory

単位／2 Credit : 2

Information, Technology, and Society in Asia 144:

Understanding Japanese Company in China: UTokyo-Peking Joint Summer Program

科目番号 Course ID Number	4971440	使用言語 Language	英語 English
担当教員 Teacher	園田茂人（情報学環）、卯田宗平（ASNET） Shigeto Sonoda, Shuhei Uda (ASNET)	場 所 Venue	TBA
授業時間 Semester/Time	冬学期（Winter）、集中（Int）	キーワード Keywords	Understanding China, Summer program, Japanese Company, Peking University
授業内容 The contents of a lesson	University of Tokyo will start a new type of joint summer program with Peking University. In this program, students from both universities will listen to the same lectures and participate in the same field trips to understand what sort of difficulties Japanese companies are facing and how they are trying to overcome such difficulties. For further information, please check UT-mate.		

分野／情報論（学際情報学府） Field : Information Theory

単位／2 Credit : 2

Information, Technology, and Society in Asia 319:

MindHacks: Organizing Knowledge, Resources and Research in the Internet Era

科目番号 Course ID Number	4973190	使用言語 Language	英語 English
担当教員 Teacher	ミヒヤエル・シルツ（東文研） Michael Schiltz (Advanced Studies on Asia)	場 所 Venue	東洋文化研究所 6階 615 615, 6th floor, Institute for Advance Studies on Asia, Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	夏学期（Summer）、火（Tue）、4時限（14:55-16:40）	履修上の注意 Important points	Due to the collaboration-intensive nature of this seminar series, the number of students will be limited.
キーワード Keywords	Digital humanities, learning technology, library science		
授業内容 The contents of a lesson	The seminar series attempts to familiarize students with a wide range of freely available online tools that are specifically geared towards academic use. These technologies include means for storing and organizing sources, visualize and 'mine' data, alternative search tools and sources contemplating the epistemological consequences of so-called digital humanities. For further information, please check UT-mate.		

分野／情報論（学際情報学府） Field : Information Theory

単位／2 Credit : 2

文化・人間情報学特論 I

Special Seminars in Cultural and Human Information I

科目番号 Course ID Number	4917030	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	真鍋祐子（東洋文化研究所） Yuko Manabe (Advanced Studies on Asia)	場 所 Venue	情報学環本館 7階第一演習室 1st Seminar Room, 7 floor, Interfaculty in Information Studies Bldg. Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	冬学期（Winter）、月（Mon）、3時限（13:00-14:45）	履修上の注意 Important points	成績評価の方法：出席状況、レポート、討論への貢献度
授業内容 The contents of a lesson	授業の詳細内容は UT-mate で確認してください。		

分野/特論 Field: Advanced Studies

単位/2 Credit: 2

日中関係

科目番号 Course ID Number	291317	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	丸川知雄 (社会科学研究所) Tomoo Marukawa (ISS)	場 所 Venue	社会科学研究所 1 階第一会議室 Meeting Room#1, Institute of Social Science, Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	S semester、金 (Fri)、2 時限 (10:25-12:10)	キーワード Keywords	日中関係、日本、中国、外交、資源、投資、貿易、大メコン圏 (GMS)、東南アジア、中国化
履修上の注意 Important points	教科書を用いて議論するので必ず教科書を入手すること。		

授業内容 The contents of a lesson

2012 年には領土問題を巡って日中関係が大きく動揺した。2010 年に中国と日本の GDP の規模が逆転したときから両国関係の基調が変化した。本講義では最新の情勢を踏まえながら中長期的な視点で日本と中国の関係を、政治外交関係、経済関係、社会文化関係、東南アジアからの視点など、多角的に掘り下げて分析する。

In 2012, Sino-Japanese relationship faced a major challenge triggered by territorial disputes. The basic trend of bilateral relationship has changed since China's GDP surpassed that of Japan's in 2010. This lecture series will view Sino-Japanese relations from various perspectives, such as political and diplomatic relationship, economic relationship, social and cultural issues, and perspectives from South East Asia.

- 参加教員
丸川知雄・高原明生・園田茂人・末廣昭
- 授業の方法
テキストの輪読と討論、講義
- 評価の方法
授業への積極的参加とレポート
- 教科書
『日中関係史 1972-2012』Ⅰ政治、Ⅱ経済、Ⅲ社会・文化、Ⅳ民間
東京大学出版会、2012/14 年；末廣昭『新興アジア経済論』岩波書店
- その他
詳細な日程は東京大学社会科学研究所現代中国研究拠点の ASNET 講座ウェブサイトにて公表する。
<http://web.iss.u-tokyo.ac.jp/kyoten/asnet/>

○授業計画

- オリエンテーション
- 1980 年代の日中政治関係 (高原)
- 1990 年代の日中政治関係 (高原)
- 2000 年代の日中政治関係 (高原)
- 新興アジア経済論 (1):
アジア化するアジア (末廣)
- 新興アジア経済論 (2):
技術のパラダイムシフトと後発企業の戦略 (末廣)
- 新興アジア経済論 (3):
人口転換と社会問題 (経済と社会のリバランス)
- 友好フレームの終焉? (園田)
- 日本企業からみた中国の「政治リスク」(園田)
- 対中企業進出の日韓比較 (園田)
- 日中貿易の歴史 (丸川)
- 日中の企業間協力関係の変遷 (丸川)
- 日本の安全保障貿易と中国 (丸川)

注意①：正規課程とプログラム履修の関係について

NOTE 1: Standard curriculum and taking part in the program

本プログラムの修了は正規課程の修了とは独立に認定します。したがって、本プログラムにおいて「他研究科 (教育部) 履修」、「学部科目履修」として取得した単位を、所属する研究科・教育部が正規課程の単位としてどのように取り扱うかは、当該研究科・教育部が決定します。

Recognition of completion of the program is independent of that for completion of the standard curriculum. Therefore, decisions regarding treatment as credit of units gained in this program from "Other graduate school (educational department) enrolment" or "Undergraduate course enrolment" vis-a-vis the standard curriculum of the graduate school or faculty to which the student belongs shall be determined by that graduate school or faculty.

注意②：修士課程から博士課程に進学した時の扱い

NOTE 2: Treatment of credits when moving from a master's to a doctoral program

修士課程または博士課程在学中に 12 単位を修得した場合だけでなく、東京大学の修士課程から博士課程へ進学した学生は、両課程を通して 12 単位を取得することで修了と認定されます。ただし、東京大学の学部において言語科目群に該当する単位を取得して、大学院に進学した場合においては、学部在籍中に取得した単位を本プログラムの単位とみなすことは出来ません。

For students who gained 12 credits during the term of a master's or doctoral program, or for students at the University of Tokyo who have moved from a master's to a doctoral program, recognition of completion shall be given for 12 credits gained during both courses. However, for students who gained credits for language-related courses at a University of Tokyo undergraduate faculty and moved on to the graduate level, the credits gained by such students while enrolled in that department may not be used as credits in this program.

注意③：平成 18 年度～20 年度の「日本・アジア学講座」との関係

NOTE 3: Regarding 2006 ~ 2008 Lectures on Japan-Asian Studies

平成 18 年度～20 年度の期間に「日本・アジア学講座」として開講された科目のうち、作業委員会が特別に認めた場合には修了要件の単位とすることができます。

If the Managing Committee gives special permission, credits gained from those subjects taught during the Japan-Asian Studies Lectures held between 2006 and 2008 may be counted as credits.



言語科目群

Asian Language Courses

事前に必ず、履修に当たっての注意（履修者の制限など）を、ウェブサイトならびに UT-Mate 上で確認してください。
 どちらのキャンパス（本郷・駒場）の科目でも履修可能ですが、学部学生の履修状況によっては、受講できない場合もあります。

For detailed information in English, please visit the website.

<http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/>

本郷キャンパス【文学部開講科目】

Hongo Campus (Faculty of Letters)

科目名	科目番号	担当教員	セスター	単位	科目名	科目番号	担当教員	セスター	単位
中国語前期 (1)	04156401	邵 迎建	S	2	韓国朝鮮語初級 (2)	04156439	五十嵐 孔一	A	2
中国語前期 (2)	04156402	邵 迎建	A	2	アラビア語 (1)	04156440	榮谷 温子	S	2
中国語後期 (1)	04156403	邵 迎建	S	2	アラビア語 (2)	04156441	榮谷 温子	A	2
中国語後期 (2)	04156404	邵 迎建	A	2	ペルシア語 (1)	04156442	渡部 良子	S	2
中国語後期	04156452	陳 継東	A	2	ペルシア語 (2)	04156443	渡部 良子	A	2
ヒンディー語 (1)	04156436	町田 和彦	S	2	チベット語 (1)	04156450	星 泉	S	2
ヒンディー語 (2)	04156437	町田 和彦	A	2	チベット語 (2)	04156451	福田 洋一	A	2
韓国朝鮮語初級 (1)	04156438	五十嵐 孔一	S	2					

駒場キャンパス【教養学部開講科目】

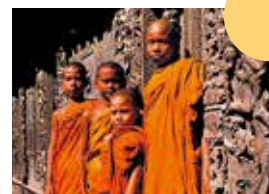
Komaba Campus (College of Arts and Sciences)

科目名	科目番号	担当教員	セスター	単位	科目名	科目番号	担当教員	セスター	単位
共通中国語 (25) (中級演習)	08A4025	秋山 珠子	S	2	共通中国語 (59) (TLP)	08A4059	菊池 真純	S	2
共通中国語 (26)	08A4026	秋山 珠子	A	2	共通中国語 (60) (TLP)	08A4060	鄧 芳	A	2
共通中国語 (27) (中級会話) (PEAK 中級)	08A4027	李 洵	S	2	共通中国語 (61) (TLP)	08A4061	菊池 真純	S	2
共通中国語 (28) (PEAK 中級)	08A4028	李 洵	A	2	共通中国語 (62) (TLP)	08A4062	菊池 真純	A	2
共通中国語 (29) (中級会話)	08A4029	中原 裕貴	S	2	共通中国語 (63)	08A4063	刈間 文俊	A1	2
共通中国語 (30)	08A4030	李 雲	A	2	共通韓国朝鮮語 (11)	08A8011	金 亨貞	S	2
共通中国語 (31) (中級作文)	08A4031	柴 森	S	2	共通韓国朝鮮語 (12)	08A8012	橋本 繁	A	2
共通中国語 (32)	08A4032	柴 森	A	2	共通韓国朝鮮語 (13)	08A8013	金 亨貞	S	2
共通中国語 (33)	08A4033	劉 岸麗	A	2	共通韓国朝鮮語 (14)	08A8014	金 亨貞	A	2
共通中国語 (34) (中級読解)	08A4034	石井 剛	S	2	共通韓国朝鮮語 (15) (PEAK 中級)	08A8015	張 銀英	S	2
共通中国語 (35) (上級会話)	08A4035	張 ホウ蕾	S	2	共通韓国朝鮮語 (16) (PEAK 中級)	08A8016	張 銀英	A	2
共通中国語 (36)	08A4036	李 佳リョウ	A	2	共通韓国朝鮮語 (17)	08A8017	橋本 繁	S	2
共通中国語 (37) (上級作文)	08A4037	李 佳リョウ	S	2	共通韓国朝鮮語 (18)	08A8018	月脚 達彦	A	2
共通中国語 (38)	08A4038	李 佳リョウ	A	2	共通韓国朝鮮語 (19) (PEAK 初級)	08A8019	張 銀英	S	2
共通中国語 (39) (上級読解)	08A4039	刈間 文俊	S	2	共通韓国朝鮮語 (20) (PEAK 初級)	08A8020	張 銀英	A	2
共通中国語 (40)	08A4040	林 少陽	A	2	共通アラビア語 (7)	08A9007	苅谷 康太	S	2
共通中国語 (41)	08A4041	林 少陽	S	2	共通アラビア語 (8)	08A9008	杉田 英明	A	2
共通中国語 (42)	08A4042	代田 智明	A	2	共通アラビア語 (9)	08A9009	苅谷 康太	S	2
共通中国語 (55) (PEAK 初級)	08A4055	張 玉萍	S	2	共通アラビア語 (10)	08A9010	杉田 英明	A	2
共通中国語 (56) (PEAK 初級)	08A4056	張 玉萍	A	2	共通アラビア語 (11)	08A9011	オダイマ ムハンマド	S	2
共通中国語 (57) (TLP)	08A4057	張 佩茹	S	2	共通アラビア語 (12)	08A9012	オダイマ ムハンマド	A	2
共通中国語 (58) (TLP)	08A4058	王 前	A	2	共通アラビア語 (13)	08A9013	濱田 聖子	S	2

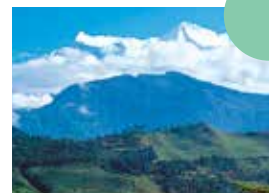
科目名	科目番号	担当教員	セメスター	単位	科目名	科目番号	担当教員	セメスター	単位
共通アラビア語 (14)	08A9014	濱田 聖子	A	2	台湾語 (4)	08A9460	王 嵐	A	2
共通アラビア語 (15)	08A9015	未定	S	2	タイ語 (3)	08A9463	浅見 靖仁	S	2
共通アラビア語 (16)	08A9016	未定	A	2	タイ語 (4)	08A9464	浅見 靖仁	A	2
ヒンディー語 (5)	08A9421	藤井 毅	S	2	モンゴル語 (3)	08A9467	荒井 幸康	S	2
ヒンディー語 (6)	08A9422	藤井 毅	A	2	モンゴル語 (4)	08A9468	荒井 幸康	A	2
ヒンディー語 (7)	08A9423	藤井 毅	S	2	ベルシャ語 (3)	08A9471	前田 君江	S	2
ヒンディー語 (8)	08A9424	藤井 毅	A	2	ベルシャ語 (4)	08A9472	前田 君江	A	2
ベトナム語 (5)	08A9429	加藤 栄	S	2	ヘブライ語 (3)	08A9475	飯郷 友康	S	2
ベトナム語 (6)	08A9430	加藤 栄	A	2	ヘブライ語 (4)	08A9476	飯郷 友康	A	2
ベトナム語 (7)	08A9431	伊藤 未帆	S	2	サンスクリット語 (3)	08A9479	梶原 三恵子	S	2
ベトナム語 (8)	08A9432	岩月 純一	A	2	サンスクリット語 (4)	08A9480	梶原 三恵子	A	2
トルコ語 (5)	08A9437	齋藤 久美子	S	2	シリア語 (4)	08A9484	高橋 英海	A	2
トルコ語 (6)	08A9438	齋藤 久美子	A	2	広東語 (5) (中級)	08A9485	谷垣 真理子	S	2
トルコ語 (7)	08A9439	高松 洋一	S	2	広東語 (6)	08A9486	谷垣 真理子	A	2
トルコ語 (8)	08A9440	高松 洋一	A	2	広東語 (7) (初級)	08A9487	吉川 雅之	S	2
インドネシア語 (5)	08A9449	高地 薫	S	2	広東語 (8)	08A9488	吉川 雅之	A	2
インドネシア語 (6)	08A9450	高地 薫	A	2	専門中国語 (1)	08B4001	楊 凱栄	A	2
インドネシア語 (7)	08A9451	高地 薫	S	2	専門韓国朝鮮語 (1)	08B8001	崔 泰源	A	2
インドネシア語 (8)	08A9452	高地 薫	A	2	専門韓国朝鮮語 (2)	08B8002	長澤 裕子	S	2
上海語 (3) (初級)	08A9455	周 剛	S	2	専門韓国朝鮮語 (3)	08B8003	未定	A	2
上海語 (4)	08A9456	周 剛	A	2	専門アラビア語 (1)	08B9001	杉田 英明	A	2
台湾語 (3) (初級)	08A9459	王 嵐	S	2					



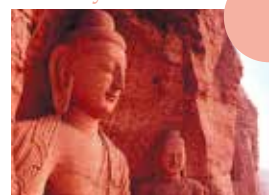
Human



Nature



History



Society



日本・アジアに関する教育研究ネットワーク

- 学生のアジア理解を深める「日本・アジア学」教育プログラム(研究科等横断)
- ウェブサイト、メールマガジン、メーリングリストを通じた情報・意見交換
- 研究者の国際交流・分野間交流の促進

ASNETではアジアに関する情報を掲載したメールマガジンを発行しています。
どなたでも、無料で購読することができます。
ウェブサイトから購読登録をするか、事務局までメールで購読希望のメールをお寄せください。

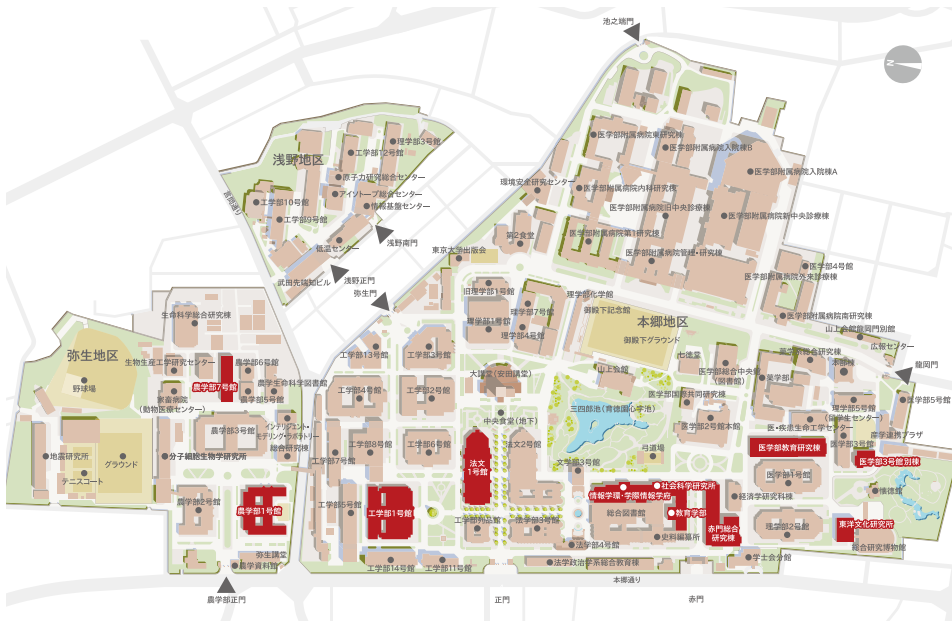
Network for Education and Research on Asia is a virtual network for the education/studies on Asia.
The network issues an e-newsletter for exchange of information on Asia. Subscription is free.
Please register at the website or contact the network office by e-mail for the subscription.

URL : <http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/>

E-mail : asnet@asnet.u-tokyo.ac.jp

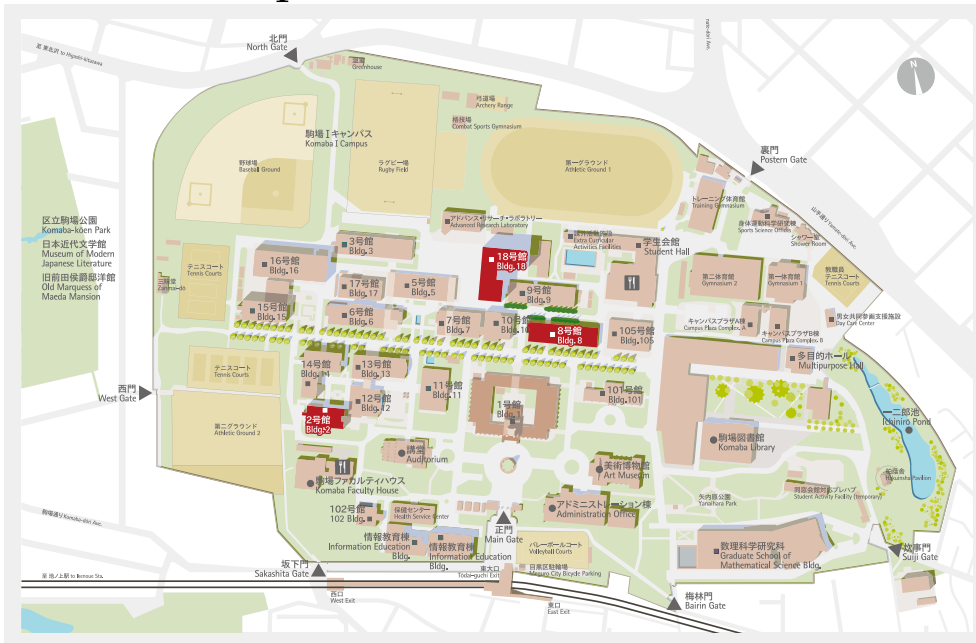
Hongo Campus

本郷キャンパス



Komaba Campus

駒場キャンパス



連絡先・お問い合わせ先

Contact and Inquiries

東京大学 日本・アジアに関する教育研究ネットワーク

Network for Education and Research on Asia

電 話 / Tel	03-5841-5868 (DI)
内 線 / Ext	25868
メ ー ル / E-mail	asnet@asnet.u-tokyo.ac.jp
インターネット / URL	http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/